「ウオカー」氏著

通貨論

第十四編／内第一号

大藏省
翻譯局

114
A1122
2

帝國圖書館藏

千八百七十八年出版

博士「ウオーカー」氏著

通貨論第二部不換紙幣論

鬼頭悍二郎 譯

大正十一年四月
大藏省

第十四編

不換紙幣ノ理論

凡ソ物ノ何々ルヲ論セス交換ノ媒介トナス物ハ其物ニ含蓄固有ノ報酬トナルヘキ價格即チ同價アルニ在ラサルヨリハ仮令ヒ現實交換ノ媒介トシテ使用セラルヽアルモ其レニ「モニー」(通貨ノ義)ノ名称ヲ下スヿヲ煩フハ稍々経濟学者流ノ通弊トハナリタリ

経濟学者流ノ通弊以テ斯ノ如ク含蓄同有ノ報酬トナルヘキ價格即チ同價ヲ有セサル交換ノ媒介内ニハ「モ

ニ「ノ」ノ称ヲ下スヲ嫌フトハ蚤ニサラバトテ弓体上ニ
就テ推考思察スルモ此「モニー」ノ名稱ヲ措テ他ニ妥当
ノ別称ヲ得ベキヤ否ヤ又其別称ハ能ク世俗ニ通シ安
キモノナルヤ否ヤハ是レ寔ニ論スベキノ点ニアラス
ヤ余カ所見ニ由レバ「ペイパー、モニー」(紙幣ノ義)ナル俗称ヲ
此今蓄固有ノ報酬トナルベキ價格即チ同價ヲ有セザ
ル交換ノ媒介物ニ下スモ毫モ學術上ニ異義アルヲ見
ス請フ其然ル所以ヲ述ベン
己ニ「ペイパー」(紙ノ義)ノ一字ヲ冠セシ「モニー」(通貨ノ義)ナル語
ハ一言以テ「モニー」ノ意義ヲ制限明示スルカ故ニ「ペイ
パー、モニー」トサヘ云ヘハ其物ニ含蓄固有ノ報酬トナ
ルベキ價格即チ同價ナキヲ証明スルニ足レバナリ
凡ソ何ナル品何ナル物ニ限ラス其物ニハ含蓄固有
ノ報酬トナルベキ價格即チ同價ナキ交換ノ媒介物
ニ「ペイパー」ノ語ヲ冠シ其意義ヲ制限セスシテ只ニ
ニ「ト」而已唱フルヿアルヤ否ヤハ交換紙幣即チ銀
行紙幣ノ事ニ論及スルヲ俟ツテ詳論スル所アルベ
シ
「ペイパー」ノ一語ヲ冠シテ以テ「モニー」ノ意義ヲ制限明
示スル己ニ右ニ論スルカ如クナレバ蓋シ誰レ一人タ
リトモ此「ペイパー、モニー」ノ語ヲ用ヒタルヨリ迷惑誤解
スルモノナカルベシ又此「ペイパー、モニー」ノ称ヲ下シ
タレバトテモ通貨ノ通貨タル要務ニ違背スルヿモア
ラザルベシト信スルナリ
畢見ニ由レハ世上往々「ペイパー、モニー」ノ称ヲ用ヒス
シテ「カーレンシイ」(通用貨ノ義)ノ語ヲ代用スル者アリト虽

ハ是レ最モ有害ノ太シキモノタルヤ必セリ然ル所以ノモノハ他ナシ此「カーレンシイ」ナル語ヲ誤用スルキハ只徒ニ無限ノ錯雜混乱ヲ招ク而已ニ止マラス猶且ツ往々名実相齟齬スルノ意義ヲ来スノ恐レアレバナリ

今本扁ニ用ユル不交換ナル語ハ仮令ヒ其紙幣ハ如何様ノ約束アルニセヨ如何様ノ保証アルニセヨ又法律ノ假定ハ如何様ニセヨ兎ニ角所持人ノ需ニ應シテ正金ト現実ニ交換セサル紙幣ニ適用スル語ト知ルベシ

已ニ前文ニモ開陳セシ如ク凡ソ何品何物ヲ問ハス其物ニ含蓄固有ノ報酬トナルベキ價格ヲ同價ナキ交換ノ媒介物ニ仮令ヒ「ペイパー」ノ一語ヲ冠シテ以テ一意義ヲ制限明示スルモ或ハ然ラサルモ兎ニ角「モニー」ノ称ヲ下スヿヲ嫌フノ経済者流ニ至リテハ大ヒニ然ラザルモノアリ乃チ他ノ経済者流ノ言ニ由レバ凡ソ御威光ニ是レ倚ルノ紙幣即チ政府ノ発行紙幣ニハ此「モニー」ノ称ヲ下スヲ妨ケナシトスルモ信憑ニ是レ倚ルノ紙幣即チ銀行ノ発行紙幣ニハ此「モニー」ノ称ヲ下スヲ許サス其區分類別ニ付「ホスキッソン」氏ノ明言スル所乃チ左ノ如シ

凡ソ信憑ニ是レ倚ルノ紙幣トハ余カ所謂「シルキュレイチング、クレデット」（流通信憑ノ義）ナルモノ是レナリ而シテ其紙幣ハ凡ソ金高ノ多少ニ拘ハラス其表面ニ記載アル文字ノ高ヲ請求次第ニ拂渡スヘキ約束ア

リテ初メテ成ルモノナリ此紙幣ニシテ此外束アル
カ故ニ自ッカラ世上一般ニ其紙幣発行主ヲ信スル
ニ依リ発行主ハ社會万般ノ取引上ニ於テ此紙幣ヲ
正金ニ代用シ得ルナリ
又凡ソ御威光ニ是レ倚ルノ紙幣トハ俗語ニ所謂「ペ
ーパー、モニー」ノ紙幣義ナルモノ是レナリ而シテ其紙幣
ハ其國政府ノ允准ヲ得併セテ政府自ッカラ其事ニ
干渉シテ以テ発行流通スルノ約ニ因ル初メテ成
ルモノナリ
経済博士「ストル〻」氏ノ如キモ亦聲シク同様ノ區
分類別ヲナセリ
曾テ銀行制限法ヲ設ケサル以前ハ英國ニ流通ス
紙幣ハ實ニ昔「シルキ、ヲレイチング、クレヂット」而已
ニ止マレリ然ルニ澳、露ノ両國ハ勿論其他諸國ノ流
通紙幣ノ如キハ所謂「ペイパー、モニー」ト称スルニ但
當スルモノナリト以上ハ「ホスキッソン」氏著「デプレ
シイション、オフ、ゼ、カーレンシイ」ト題スル書中第三
「イヂヨリ拔出スル所ニ係ル」
論者往々不換紙幣ナルモノハ原ト交換紙幣ノ殘劣衰
頽セシヨリ由來セシモノヽ如クニ辨論スル者モナキ
ニアラスト虽ども熟之レヲ史冊ニ徵スルニ凡ソ不換紙
幣ノ制ヲ行フニ至リタル類例中論者ノ言ヘル如キモノ
アルヲ視ザレバ此論ノ當ヲ得サルヤ推シテ知ルベキ
而已
扨又右ノ不換紙幣ノ性質効用ノ如キハ余輩カ已ニ前
編正貨論ノ部ニ於テ貨幣鑄造料ノ其影響ヲ物價ニ波

及スルノ如何ニ付テ詳論セシ所ノモノヲ回顧詳査スルニアラハ大ニ悟ル所アルヘシ依テ今亦重複ヲ厭ハス之レヲ再出スル「斯ノ如シ

凡ソ貨幣ノ購買力即チ物價ニ鑄造料ノ其影響ヲ波及スル果シテ如何

元小鉄ク此間ニ應答セントスルニハ先ツ以テ本書第五拾九「ペイヂ」より第六十五「ペイヂ」ニ至ルマテ物價ノ高低ト通貨ノ多寡トノ関係ニ付テ已ニ述ヘシ主義ヲ綿密詳細ニ參照スルコヽ要用ナリ今爰ニ本編ニ於テ此問ニ應シ正當ノ答ヲナサバ以テ不揣紙幣ノ奥妙秘密ヲ探知スルノ捷徑トナスニ足ルヘシ依テ今暫ラク此鑄造料ノ事ニ付テ「リカルド」氏ノ所見ヲ左ニ寫出セン

爰ニ一國アランニ其國ハ今暫ラク内國貿易ノ用途ニ供スル為メニ壱百萬片ノ貨幣（六片ノ純金壱百「グレインツ」トス）ヲ要スル「ト假定スベシ然ラハ現ニ其國ハ壱億「グレイン」丈ケノ純金ヲ貨幣トシテ使用スルモノタリ爰ニ於テカ凡ソ諸物價ノ平均ハ此壱億萬「グレイン」ノ貨幣ト其貨幣ノ需求ノ割合如何ニ由リテ判定セラルヽモノトス夫レ其需求ヲ貨幣ニ生スル所以ハ現ニ萬般ノ取引貿易上ニ於テ是非現貨ヲ以テ行ハザルヘカラサル場合アルニ因ルモノナリ

然ルニ今爰ニ鑄造料ノ制ヲ施設スルニ至リタル「假定スヘシ爰ニ於テハ造幣寮ヘ輸送シテ金貨ヲ鑄造セシト欲スル者ハ國王ハ壱百「グレインツ」ノ

内ヨリ壱「グレイン」ヲ引去リテ以テ其鑄造料トナス
是ニ由テ九拾九「グレイン」ノ貨幣壱百萬片ヲ輸
送人ヘ返付スルモノトス爰ニ於テ國王ハ其鑄造料
トシテ引去リタル壱百萬「グレイン」ヲ其所有ノ金庫
ニ蔵メテ以テ寶貨トナシ置クカ然ラザレハ之レヲ
延板等ノ製造用ニ供スルモノトナス然ル上ハ只僅
ニ九千九百萬「グレイン」ノ純金現ニ世上ニ流通スル
アル而已然レトモ其貨幣片ノ員數モ其造幣價格モ依
然トシテ最前ニ異ナル所ナキナリ
夫レ斯ノ如ク鑄造料ノ制行ハレ貨幣片壱百「グレイ
ン」ノ内ヨリ壱「グレイン」ツヽヲ引去リシトモ猶ホ其
一片ヲ以テ最前通リ多クノ品物ヲ購買シ得ヘキ乎
將々最前ヨリモ減少スヘキ乎

「リカルド」氏之レニ答テ曰ク最前通リ多クノ品物ヲ
購買シ得ヘシト
「リカルド」氏カ右ノ如ク答フル所以ノモノハ他ナシ
仮令ヒ含蓄ノ分量ハ減セリト雖ホ萬般交易ノ
用途ニ供スル為メニ貨幣片ヲ需求スルノ高サモ最
前ニ変ルナク然ルニ又其供給モ最前ト増減ナシ爰
ニ於テカ其貨幣片ノ價格最前ト毫モ異ナル所ナク
依然トシテ存スルアレバナリト
若シ「リカルド」氏ノ言ノ如クセハ抑モ吾人ハ如何カ
シテカ通貨ハ物價ノ量器ナリト云ヒ又物價ヲ量ル
ニハ物價ヲ以テセザルベカラスト云ヒ又物價ハ勞
役ノ多寡如何ニ相因ルト云フ得ヘキヤヤ
余輩ハ已ニ本書第四「ペイヂ」ヨリ第九「ペイヂ」ニ至ル

マテ此通貨ノ通貨タル要務ヲ脩正スルノ可ナルヿ
ヲ忠告セリ請フ就テ參看アラヘシ
然リ而シテ余輩ハ今爰ニ此事ニ付微シク論スヘキ
ノ理由ナキニハアラスト雖モ此事ハ猶ホ本書第二
百八拾「ペイヂ」ヨリ第九拾「ペイヂ」ニ至ルマデ不換
紙幣ノ部ニ於テ極論セント欲スルヲ以テ今本編ニ
於テハ爰ニ少シク論弁スルニ過キス
國王ハ今一歩ヲ進メ鑄造料ノ割合トシテ壱百「グレ
イン」ノ内ヨリ拾「グレイン」ツヽヲ引去ルトシ壱千萬
「グレイン」ヲ其金庫ニ蔵メテ以テ五片九拾「グレイン」
ツヽノ貨幣壱百萬片ヲ最前通リ同様ノ名称ニテ発
行スルヿト定ムヘシ
此時ニ至リテモ猶ホ各貨幣片ノ購買力ハ依然トシ
テ舊ニ変ラサルヘキ乎
「リカルド」氏ノ云ク全ク変動ヲ見ルヿト其然ル所以ノ
モノハ萬般貿易交換ノ用途ニ供充スル為メニ矢張
リ最前同様ノ需用ヲ貨幣片ニ求ン供給モ猶ホ依然
トシテ同額ニ止マリ毫モ増減アルナシ是ヲ以テ各
貨幣片ノ價格ハ苟モ高低スルヿナク断乎トシニ日
ニ異ナラス随テ諸物價ノ割合モ亦昇降ナク依然ト
シテ最前ニ異ナラサレハナリト
「リカルド」氏ノ所見寔ニ斯ノ如シト雖モ今暫ラク余
輩ヲシテ稍々之レト相異ナル点ニ歩ヲ轉セシメ假
ニ國王ハ壱千萬「グレイン」ヲ鑄造料トシテ徴收シテ
以テ之レヲ其金庫ニ寶蔵ヽシテ毎片九拾「グレイ
ン」ツヽノ貨幣片ニ之レヲ鑄造シ其武器若シハ其家

具類買入レノ為メニ之レヲ拂出スコト定メシムベシ

若シ夫レ斯ノ如キ場合ニ至テハ吾人ハ即坐ニ貨幣ノ供給需求ニ超越スルヲ視ルニ至リ隨テ其價格忽チ下落ニ就クベキナリ

殘額九千萬「グレイン」ヲ最前ノ壱億「グレイン」ノ如ク同様ノ名称ヲ以テ同様ノ負数ニテ鋳造スルトキハ失張最前通リ同様ノ購買力ヲ保持スレアリト雖モ壱億「グレイン」ヲ鋳造スルニ其負数ヲ最前ヨリモ増スコトアラハ各貨幣片ノ購買力立刻ニ下落スルヤ論ヲ俟ス

左ノ文ハ「リカルド」氏カ「ボサンク」氏ヘ送リタル返信中ノ一議論ナリ

「リカルド」氏ノ曰ク凡ソ貨幣ナルモノハ其額超過ナルニアラサレハ毫モ下落ヲ來ス恐レアルナシト仮令ヒ貨幣ハ事ニ依リ或ハ痛ク損傷ニ罹ルコトアルトモ猶ホ其鋳造價ハ依然トシテ常ニ異ナルコトナシ猶ホ更ニ詳言セハ仮令ヒ損傷貨幣ト雖モ猶ホ其含有スヘキ筈ノ地金ノ實價丈ケニハ必ラス通用ス

シト尤モ其貨幣餘リ巨額ナルニ於テハ此限ニアラスト

然ルニ「リカルド」氏ハ其著述「ハイ、プライス、オフ、ブリオン」(地金高價論)ト題セル一小冊子中ニ左ノ数言ヲ吐露シ置ケリ是レ此数言ニ付テハ余輩如何様之レヲ明解ヲ下サントト欲スルモ能ハス数言トハ他ナシ若シ英金「ギニイ」貨ヲシテ不幸剪断等ノ弊害ヲ被ム

リテ現價ヨリモ半減スルニ至ラバ凡百ノ品物ハ論フル迄モナク土地ニ至ルマデ何レモ騰貴シテ其目下ノ空價ニ倍スルニ至ルヘシト論セシ「是レナリ」

蓋シ同書中ニ載錄ヤシ主義ハ此主旨ニ関スル「リカルド」氏ノ定論タルヤ毫モ疑ヲ容レザルナリ

又「リカルド」氏ノ言ニ曰ク到底鑄造ノ権獨リ政府ノ専ハラニスル所ニ止ル間ハ仮令ヒ鑄造料ニ制限ヲ設ケント欲スルモ決シテ能ハス其然ル所以ノ、他ナシ貨幣ノ額量ニ制限ヲ設クルトハ如何様ニモ鑄造料ヲ騰貴シ得レバナリ（以上ハ「ポリチカル、エコノミイ」経済論第貳百拾貳「ページ」ヨリ抜出ス）而ルニ「リカルド」氏ハ猶ホ一歩ヲ進メ論シテ曰ク右同様ノ訳合ニテ貨幣ノ額量ニ制限ヲ設クルトハ損傷俵

幣ハ蓋シ之レガ為メニ恰モソノ貨幣ハ合法ノ量目アリ合法ノ性合アリテ維持スベキ價格ニ流通スルニ至ルヘシ変シテソノ貨幣ハ現ニ其含蓄セル金属ノ多寡ニ由リテ流通セザルベカラズ

サレバコソ余輩ハ英國ノ貨幣史ニ徴シテ凡ソ貨幣ナル者ハ仮令ヒ損傷スルアルモ其損傷ノ割合ニ應シテ決シテ下落ヤシコトナキヲ知ルナリ

夫レ斯ノ如クナル所以ノモノハ凡ソ貨幣ハ仮令ヒ其實價減少スルアルモ其減少ノ割合ニ應シテ其額量ノ決シテ増加スルナキノ理ニ因リテナリト（同所ヨリ抜出ス）

「リカルド」氏ハ英國貨幣史中ヨリ左ノ文ヲ引証シテ以テ其主義ヲ説明スルヿ左ノ如シ

目下（千八百十一年）我英國ノ銀貨幣ハ其貨幣タル價格却テ其地金相場ヨリモ上ニ位シ現ニ世上ニ流通セラルヽアリトス是レ他ナシ畢竟銀貨價造者ノ為メニ莫大ノ利得ヲ占メラレタルニモ拘ハラス其銀貨ハ仍ホ未タ充分ノ供給ニ乏シクシテ其價格ヲ變動スルニ足ラザレバナリト

又「リカルド」氏ガ「ボサンク」氏ヘ寄セシ答交中第九十六「ペイデ」ニ曰ク千八百九十六年再鑄造ノ擧（本書第二百九「ペイデ」ヨリ十二「ペイデ」マデヲ參看スベシ）アリシ以前地金相場騰貴スル「ヤウ」時貨幣ノ損傷太タシキヲ視テ暗ニ豫想セシ程ニハ至ラサリシカ如キハ亦職トシテ此理ニ由ルモノト云ハザルベカラス其然ル所以ノモノハ他ナシ當時ニアッテハ仮令ヒ貨幣ノ性合ハ損傷ニ至リタレ𪜈夫レニ應シテ貨幣ノ額量ハ增加ヤザレバナリ

然ルニ「リカルド」氏ハ以上開陳スル所ニ止マラス猶亦千七百九十七年以前ノ事ニ遡リ更ニ論シテ曰ク「千七百九十七年以前一時銀貨幣ハ太タ非常ノ損傷ニ就キシト量𪜈猶ホ其銀貨ノ供給現ニ乏シキヲ告ケタルカ故ニ矢張リ余輩カ已ニ前文ニ開陳セシ理由ニ由リテ以テ其銀貨ノ通用價ハ決シテ下落セサリシト」

以上「リカルド」氏ノ說ク所ニ依レハ若シ左ノ如ク貨幣ノ超過スル𪜈ニハ如何ノ結果ヲ來スベキ乎

今輩ハ「リカルド」氏ノ主義ニ由リ假リニ例ヲ設ケテ爰ニ貿易ノ用途ニ供スル為メニ毎片ノ鑄造價壱百

「グレイン」ツヽナル金貨壱百萬片ノ需求アルヿヲ已ニ前文ニ開陳シ置キタリ又造幣寮ニ於テ右ノ壱百萬片ノ金貨ヲ其鑄造スルニ當リ壱百「グレイン」ノ内ヨリ拾「グレイン」ヅヽヲ鑄造料トシテ引去リテ以テ各片ノ重量ヲ僅ニ九拾「グレイン」ツヽトナオトモ総額壱百萬片ノ購買力ヲハ決シテ変更スルヿナキ旨ヲモ已ニ開陳セリ猶ホ又右ノ壱百萬片ハ依然トシテ其鑄造價ヲ保持シ得ベキヿヲモ開陳シ置タリ猶ホ更ニ其意ヲ詳言セハ其貨幣片ノ含有スベキ筈ノ地金ノ実價ニテ世上ニ流通スヘキヿヲ論セリ而ルニ尚ホ「リカルド」氏ハ毫モ忌憚顧慮スル所ナク論シテ曰ク今暫ラク五割ノ鋳造料ヲ賦課スルト假定スルモ其結果ハ前段ト毫モ異ナル所ナシト其然ル所以ハ政府ガ五割ノ鋳造料ヲ徴收シテ占ムル所トナリタル五千萬「グレイン」ヲ以テ毎片鋳造價壱百「グレイン」ツヽノ貨幣片壱百萬片ニ鋳造セハ恰モ壱割ノ鋳造料ヲ引去リタル毎片ニ拾「グレイン」ツヽノ行幣片ト同價同等ノ交易ヲ遂クルニ足レハナリト夫レ然リ然リト雖モ今爰ニ壱割ノ鋳造料ヲ徴收スルトセハ毎片鋳造價壱百「グレイン」ツヽノ貨幣片壱百萬片ヲ発行セスシテ却テ壱百拾壱萬壱千百拾壱片ヲ発行スルニ至ルヲ以テ其結局貨幣片ノ下落ヲ来サスンバ在ルベカラス

斯ノ如キニ至レバ已ニ壱億千百拾壱萬千百「グレイン」ナル鋳造價ノ貨幣其國内ニ在ルアルヲ以テ其國ニ於テハ百般ノ品物ヲ貨幣ト交換スルニ當リ自他

諸國ノ物價ト同樣ノ割合ヲ以テスベカラザルハ是レ世界通商貿易ノ因テ然シシムル所ナリ

果シテ然テバ今此貨幣ノ過剩ヲ医スルノ道ハ貨幣ヲ輸出スルノ外他ニ策ノ賴ルベキモノナシ夫レ然リ然リト雖モ抑モ何レヲカ輸出シテ可ナラン乎已ニ此場ニ臨ミテハ凡ソ大小軽重ノ別ナク貨幣ト云フ貨幣ハ皆總別一体已ニ下落セザルハナシ

夫レ斯ル場合ニ立至リテハ抑モ如何ナル標準ニ立如何ナル目安ヲ設ケテ以テ貨幣ノ内何レノ部分ヲ其國ヨリ去ラシメバ其國ノ幸福如何ヲ計ルニ足ルヤヲ判決スヘキ乎

含輩已ニ前文ニ於テ假リニ論ヲ設ケ凡ソ諸貨幣ナルモノハ悉皆純金九拾「グレイン」ツヽナル普通一定ノ量目ヲ以テ発行スベキヿヲ假定セリト雖モ物事ノ常勢ニ由リテ此普通一定ノ制ハ到底久シキニ連続シ得ベカラザルモノトス請フ其然ル所以ヲ陳セン

凡ソ貨幣ノ多キ甲貨ハ乙貨ヨリモ其流通使用向キ一層繁忙ナルアリ乙貨ハ亦丙貨ヨリ繁且ツ忙ナアリ夫レ斯ノ如クナルヲ以テ甲乙ノ両貨ハ之レヲ丙貨ニ對照比較スレバ其摩耗ノ憂ニ罹ルヤ一層迅速ナレハナリ

猶ホ其源因之レ而已ニ止マラス彼貨幣ノ周圍等ヲ剪断スル悪徒輩ハ國法ノ厳禁スル所ヲ犯シテ以テ通用貨幣ニ其害ヲ波及スレヿ種々様々ナレハナリ扨又貨幣ノ價格一旦不同ニ至リタル上ハ所謂「グレ

スハム」法ナルモノ立刻ニ世ニ起ル所トナルナリ
抑モ此法ヲ「グレスハム」ト稱スル所以ハ倫敦「ロヤール、エキスチエンヂ」ノ發起人「サー、トーマス、グレスハム」氏ノ姓ニ依リテ斯クハ唱フルモノニシテ其法ハ凡ツ二種ノ貨幣ヲ共ニ流通スルトキハ其二種ノ内ニテ性合ノ劣リタル一貨ハ性合ノ優リタル一貨ヲ排除逐斥シテ以テ性合ノ劣リタル貨幣而已代用セラルヽヿ是レナリ
例ニ依リ斯ノ如ク只漫然ト性合ノ劣リタル一貨ハ性合ノ優リタル一貨ヲ排除逐斥シト申陳ヤシ丈ケニテハ其言論未タ真且ツ正ナラスサレハ抑モ性合ノ優等ナル貨幣ハ宜シク性合ノ劣リタル貨幣ニ其位置ヲ讓リテ以テ流通上ヨリ退却スルアルハ流通貨幣ノ額超過ナル時ニ止マル而已
「リカルド」氏カ「ポサンク」氏ヘ宛セシ答文中第九拾五六両「ペイデ」ヲ視スヤ「リカルド」氏ノ言ニ曰ク
夫レ斯ノ如クナルカ故ニ五「ペニーウエート」ハ「グレイン」ノ「ギニイ」貨ハ五「ペニーウエート」若クハ其以下ノ「ギニイ」貨ト共ニ流通シ能ハスト豫想スルカ如キハ寔ニ妄論謬説ノ極ナリ請フ其然ル所以ヲ述ベンニ凡ソ此等「ギニイ」貨ノ如キハ其流通額寔ニ僅小ニ止マルアラバ蓋シ五「ペニーウエート」ハ「グレイン」ノ分モ五「ペニーウエート」ノ分モ両ツナカラ現ニ五「ペニーウエート」拾「グレイン」同様ノ價格ニ通用スルモ之レアルベキヲ以テ両貨ノ内一貨ノ流通上ヨリ引去ラルベキ情勢毫モアル訳ナク却テ之レヲ流通

上ニ止メルコソ実益アルベケレハナリト

曾テ「アレキサンドル、ハミルトン」氏カ其造幣年報中ニ左ノ数言ヲ陳述スルニ當リ如何ノ顕像ヲ目撃シテ斯ク論セシカハ右ノ「リカルド」氏ノ言ヲ以テ推知スルニ足レリ「アレキサンドル、ハミルトン」氏其年報ニ曰ク新製「ドルラル」貨発行ニ至リタレモ敢テ新旧「ドルラル」ノ間ニ如何ノ差違ヲ人々殆ト知ラス識ラスシテ自ツカラ新貨ハ旧貨ニ代リ萬般ノ著仕拂上ニ於テ通用スル所トナリタリト（然ルニ同氏ノ言ニ依レバ旧「ドルラル」貨ハ其量目其性合トモ陸続減少シテ凡ソ五分方モ下落セリト）亦同氏ノ言ニ曰ク仏幣聯邦中ノ諸地方ニ於テハ同高ノ実價アル貨幣中ニ現ニ其價格ノ不同ナルモノアリト

「ブチャナン」氏ノ如キハ其著述英領米國殖民地使用貨幣ト題セル書中ニ此事ヲ論シ置カザリシヲ以テ「リカルド」氏ハ其経済論ニ一ノ文ヲ載セテ以テ「ブチャナン」氏ノ足ラサル所ヲ補正セリ其文ニ曰ク抑モ「ブチャナン」氏ノ考察スル所ニ由レバ凡ソ全國ノ諸貨幣ハ皆必ス其價格減落シテ損傷貨幣ノ價格ト平等ニ至ラサルヘカラストナスヤ明亮ナリ然レトモ已ニ貨幣ノ額量減少スルアルニ依リ凡ソ跡ニ殘ル諸貨幣ハ皆悉ク騰貴シテ最良貨幣ノ價格ト同等ニ至ルベキモノトスト

上ニ述ブルガ如キ情況ナルトキハ両貨ノ内一貨ノ流通上ヨリ引去ラルベキ「ナシト雖モ流通貨幣二種

以上ノ總額超過スル時ニハ（尚ホ其意ヲ詳言セハ流通貨幣ノ総額ガ全社會ノ酬当額（ディストリビューティヴ）ヨリモ多キ時ニハ）所謂「グレスハム」法ナルモノ立刻ニ世ニ行ハルヽモノトス斯ル場合ニ臨ミテ時ヲ移サス其法ヽ立刻ニ世ニ行ハルヽ所以ノモノハ他ナシ已ニ此時機ニ至リテハ人々何レモ其諸負債ヲ辨償シ若クハ又其買入レ物ヲ為サントスルニハ流通貨幣ノ内テ最モ價ノ低賤ナル貨幣ヲ以テ交易百般ノ用途ニ供サヽト欲スルノ思慮アルニ因レバナリ是レ乃チ「グレスハム」法ノ世ニ行ハルヽ所以トス

此「グレスハム」法ノ世ニ行ハルヽヲ以テ流通貨幣ノ内ニテ其量目ノ自他貨幣ヨリモ重キモノハ皆之レヲ選出シ海外ヘ輸出シテ以テ海外ヘノ諸負債ヲ拂フノ用途ニ供スルモノトス之レヲ海外ヘ輸出スル所以ノモノハ他ナシ海外ニ輸送シタル上ハ貨幣ノ名称等ハ措テ問ハス其現實今蓄セル純質ノ多寡如何ニ是レ因リテ而已其價格ヲ判定スレバナリ若シ亦之レヲ海外ヘ輸送セザレハ乃チ本國ニ於テ賞牌工藝等百般ノ技術用ノ為メニ之レヲ消費スルノ用途ニ供スルモノトナスナリ其然ル所以ノモノハ斯ル用途ニ供セバ仮令ヒ本國ニアリテモ其貨幣ノ名称等ハ措テ顧ミス只管其地金ノ多寡如何ニ由リテ而已其價ヲ判定スル猶ホ海外ニ於ケルカ如クナレバナリ

抑モ斯ノ如ク貨幣ノ軽重ヲ一々選リ分チテ以テ其内ヨリ重量ノモノヽ得ルノ職ハ人民ノ皆之レニ従

事スルニアラス乃チ此職ニ従事スル者ハ商賈ナリ
殊ニ貨幣商ナリ夫レ此オ商賈ノ如キハ平素天秤ヲ
其坐右ニ置キ平素之レヲ整頓シ置キテ以テ其收支
ノ貨幣ヲ撿査シ些少ノ軽重ヲモ速ニ見分ケ軽量ノ
貨幣ハ再ヒ出シテ之レヲ流通セシメ重量ノ貨幣ハ
私ニ貯ヘ置キテ以テ寶玉師若クハ輸出人ノ求メヲ
俟ツ者ナリ

聞ク佛王「チヨン」曾テ英人ノ逮捕スル所トナリ繫
レテ獄舍ニアリシ時「チヨン」其代理人ニ命シテ以
テ諸貨幣ノ内量目ノ重キモノヽ選出サシメテ以
テ之レヲ佛國ヘ輸送シ盛ニ繁榮ヲ致セリト
「リカルド」氏ノ主義ニ由レバ抑モ貨幣含分ノ減少ス
ルハ年々流通スルノ久シキヨリ外面ノ自然ニ摩滅

スルニ出ルトモ又ハ其貨幣ヲ剪断スル等ヨリ生ス
ルトモ若クハ又造幣寮ニ於テ鑄造ノ費用ニ充テン
ガ為メカ又ハ國王ノ利得トセンガ為メカ兎ニ角若
干部分ヲ鑄造ノ節已ニ引去リ、ニ白ルトモ其如何
ニハ毫モ關係セザル「ヨ余輩已ニ前文ニ論了セリ」
サレバ同氏ノ説ニ由レバ貨幣含分ノ減少ハ如何ナ
ル源因ニ由リテ生スルトモ兎ニ角貨幣ノ於給超過
スルニアラザレバ其價格決シテ下落スル「ナシ
余輩「リカルド」氏ノ言ヲ幾回反覆論辨スルモ尚ホ足
レリトスル能ハス同氏ノ言ニ曰ク仮令ヒ貨幣ハ如
何様損傷アルトモ其鑄造價ハ猶ホ依然トシテ常ニ
変ル「ナシ」尚ホ其意ヲ詳言セハ其貨幣ハ流通高餘
リ巨額ナルニアラザル以上ハ其含有スヘキ筈ノ地

金ノ実價ニ流通スルナルベシト

然ルニ世上往々此「リカルド」氏ノ主義ヲ採ラヲ僻説ヲ固執スルノ陋習ニ流ルヽノ色アルヲ免レス時宜ニ依リテハ現ニ此主義ヲ充分ニ是認セル論者スラ動モスレバ此陋習ニ流ルヽナキヲ保セヌ

余輩熟々斯ル弊ヲ来ス所以ノ理ヲ推測スルニ貨幣ノ物價ヲ量ル猶ホ彼ノ馮尺(ヤードスティック)ガ物ノ長短ヲ量リ「ブッシエル」量器ガ物ノ度量ヲ量ルガ如シト云フノ意ヲ人々ノ意中ニ存スルニ是レ因起スルモノナリトス」若シ馮尺若クハ「ブッシエル」量器ヲシテ余輩カ已ニ論ヤシ貨幣ノ状況ノ如クナラシメバ(尚ホ其意ヲ詳言セハ馮尺ヲ三四「インチ」モ短縮シ又「ブッシエル」量器ニ偽造ノ底ヲ嵌込ムヽ「アラバ」其レコソ吾人ハ凡百ノ物品ヲ賣買スルニ當リ只斯ル不具ノ馮尺、偽造ノ「ブッシエル」量器ニ由リテ測リタルモノヲ其前使用セシ不具偽造ノ患トナキ馮尺、量器ニ引直シテ責買ノ際ニ長短軽重ノ雑沓ヲ被ハルノ萬避ケ難キハ一目瞭然タリ

抑モ貨幣ヲシテ物價ノ標準トナスノ如何ハ太タ余輩ヲ脳マスコト少ナカラス余輩断然其意如何ヲ判決辨明セザルニ在ラザレバ煩ヲ去リ難シ依テ余輩ハ後編不換紙幣ノ部ニ論及スルヲ俟テ充分之レヲ判決辨明ヤント欲スルナリ

凡ソ従前貨幣ニ含有ヤシ質分ノ内一部分ヲ鋳造料トシテ引去ルトモ(其引去ル割分ハ壱分ニセヨ又ハ壱割ニセヨ或ハ又五割ニセヨ且ツ又其之レヲ引去

ル目的ハ只ニ鑄造ノ費用而已ヲ償フタメナルニセヨ或ハ亦國家歳入ノ一部ヲ増補スル為メニセヨ其貨幣ノ購買力ヲ低減スルヿナケレバ凡ソ萬般ノ事ニ於テ經済ノ為メニ鑄造料ヲ欲セザルハ抑モ何オノ理由ナルヤ

凡ソ貨幣ナルモノハ之レヲ鑄造スルニ當リ鑄造料ヲ賦課セラル、モノトス若シ否ラザレバ政府之レヲ拂ハザルベカラス凡ソ鑄造料ナルモノハ之レヲ積置キテ以テ他日再鑄造ヲ行フベキ時ニ当リ其再鑄造ノ費用ニ充ルモ可ナリ

博士「ゼホンス」氏モ其著述「モニー、ユンド、ゼ、メカニスム、オフ、ヱキスチヱンヂ」ト題セル書中第百六十三四両「ペイヂ」ニ此要ヲ論出セリ其文ニ曰ク英國ノ銀貨鑄造料ハ凡ソ九分内外ナリ是レ新銀貨ヲ発行スルノ費ニ供シテ猶ホ餘剰アリトス何トナレバ現ニ流通セル貨幣ノ内已ニ摩耗剪断ノ患ニ罹リタルモノハ造幣寮ニ返リ來レバナリト

又鑄造料ナルモノハ尚ホ之レヲ租税トシテ使用シ以テ巨額ノ歳入ヲ来スモ或ハ不可ナカルベシ猶ホ夫レ而已ナラス其鑄造料トシテ引去リタル分ヲ更ニ貨幣ニ鑄造シテ以テ流通ノ用ニ供スルニ足ルモノナリ夫レ斯ノ如クナレバ自ラ貨幣ノ流通額増加スルガ故ニ金銀坑開鑿ノ業ニ使用セル勞役ノ内一部分ヲ轉シテ農工等ノ事業ニ向ハシメ得ルナリト

凡ソ此オノ論議ニ應答スルニ今爰ニ一言ヲ陳ス

ルヲ以テ足レリトス即チ余輩ハ紙幣ノ部ニ論及スルヲ俟ツテ逐一此等ノ論議ニ答ヘントス是レ今爰ニ論スルヨリモ萬事都合能ク且ツ一層断乎シテ應答シ得レバナリ

「リカルド」氏ノ言ニ曰ク凡ツ紙幣製造諸雑費ハ乃チ正貨ノ鑄造料ト見做シテ可ナリト

「リカルド」氏ガ「ボサンク」氏ヘ寄セシ答文ヲ同氏ノ著述經濟論ニ載セテ云ク銀行紙幣ノ如キハ鑄造ノ莫大ナル正貨ト視做シテ可ナリ蓋シ銀行紙幣ハ其発行費ノ多キ紙幣ノ全價ニ及ホスアレバナリト

「リカルド」氏ノ所論ハ已ニ右ニ開陳スルガ如ク銀行紙幣ハ之レヲ鑄造料ノ莫ナナル正貨ト見視做シテ可ナリ蓋シ其発行費ノ多キ紙幣ノ全價ニ及ホスアレバナリトス然ルニ斯ク「リカルド」氏カ銀行紙幣ノ事ニ関シテ論スル所ハ中ニハ一二異論ナキニハアラスト雖モ大体ニ至リテハ銀行紙幣ノ性質タル寔ニ「リカルド」氏所論ノ如クナルニ政府発行ノ紙幣ニハ一トシテ此所論ヲ適用スベカラス

異論ヲ容ルヽノ点トハ他ニアラス凡ソ銀行紙幣ヲ発行流通セシムルニハ先ツ以テ準備ノ正金ヲ要用トナス乃チ此準備ノ正金コソ只理ノミニ付テ論スルトハ成程銀行紙幣ノ費用中ニ之レヲ算入スルモノト視做サヾルベカラスト雖モ是レ余輩ノ所見ト異ナル所ナリ

「リカルド」氏ノ論スル所ニ由レバ正貨ノ鑄造料ハ仮令

ヒ壱割ニセヨ若クハ五割ノ高貴ナルニセヨ凡ソ世上ニ流通セル全價ノ正貨ガ社會ノ配當額ヨリモ過スルニアラザル以上ハ鑄造料ノ多寡ニ由リテ各正貨ノ購買力ヲ変更スルナキヿヲ余輩已ニ前章ニ開陳セリ余輩今暫ラク鑄造料ノ割合ヲ拾割ト定メ且ツ損傷貨幣ヲ廃シテ更ニ製造費ノ極メテ些少ナル紙幣(経済ノ理ヨリ論スレバ余輩其紙幣ヲシテ毫モ製造費之レナキモノト云フモ不可ナカルベシ)ヲ発行スルモノト定メナバ仮令ヒ貨幣ノ供給ハ超過セザルモ各貨幣ノ購買力ハ減シテ餘カナキニ至ラン此論点ニ付テハ諸経済家皆説ヲ同フスル恰モ符節ヲ合スカ如シ

「ツーク」氏ノ言ニ曰ク抑モ紙幣ノ下落スルハ其不換ノ然ラシムル所ニアラスト

又「ゼイムス、ウヱルソン」氏ハ其著述「カピタル、カーレシシー、ヱンド、バンキング」ト題セル書中第四拾貳「ページ」ニ論シテ曰ク若シ不換紙幣ノ発行額ヲシテ現ニ要求セル高ヨリモ稍ク下流ニ止ムルトキハ斯ル紙幣ハ下落ノ憂患ニ罹ルベキノ理決シテ之レアラスト

「プロフヱッソル、プライス」氏ハ其著述「プリンシプルス、オフ、カーレンシイ」ト題セル書中第百五十六「ページ」ニ論シテ曰ク凡ソ紙幣ナルモノハ其價格ノ下落ヲ被ムルヲ要セザルハ是レ経験ノ能ク証徴スル所ナリト

「リカルド」氏ノ言ニ曰ク抑モ紙幣ノ流通スル所ノハ乃チ左ノ原理ニ因レリト即チ凡ソ紙幣発行ニ関スル諸

大蔵省

雜費ハ之レヲ正貨ノ鑄造料ト同一視シテ可ナルヿ是レナリ夫レ紙幣ヤ其物ハ毫モ実價ノ在ルナシト雖モ然レモ宜シク其発行額ニ制限ヲ設ケテ以テ其濫發ヲ防クニ於テハ実ニ紙幣ノ交換價ハ恰モ同種ノ正貨乃チ同種ノ正貨中ニ含有セル地金ノ價格ト相齊シキモノナリ乃チ壱「ドルラル」ノ紙幣ハ矢張リ壱「ドルラル」ノ正貨ト齊シク通用スルモノナリト云々

又曰ク以上ノ理由アルヲ以テ凡ソ紙幣ナルモノハ其價格ヲ保護セントテ敢テ正貨ヲ以テ拂渡スベキヿヲ要セザルハ一目瞭然タラン只是ニ必要ナルハ其國ノ本位ト定メタル正貨ノ價格ニ應シテ紙幣ノ発行額ヲ増減制定スルニアル而已然ルヲ以テ其國ノ本位ハ若干量目若干性合ノ金貨ニアリシナラバ其金價ノ下落スル毎ニ紙幣ヲ増発シテ可ナリ乃チ其事ハ結局ノ歸スル所諸物價ノ騰貴ヲ來スト同一轍ナリト

「リカルド」氏猶ホ論シテ曰ク「ドクトル、スミス」氏ハ米國殖民地発行ノ紙幣ニ関シ其所見ヲ述ムニ當リテ其平生ノ持論ヲ忘却シタルモノヽ如シト

「プロフヱツソル、ツムナー」氏モ亦米國「マッサチユーセツ、」州ノ「ランド、バンク」発行ノ紙幣ニ付「ドクトル、スミス」氏ノ所論ヲ継キタルニ似タリ何トナレバ其著書「ヒストリイ、オフ、アメリカン、カーレンシイ」ト題セル書中第二十九「ペイデ」ニ論シテ曰ク今ヨリ二十ケ年以後ニ至リ金貨ヲ以テ拂渡スベキ壱「ドルラル」ノ無利足紙幣ハ凡ソ世ノ金利三銖ノ時ニハ其紙幣ノ價ハ五十五「セント」ナリ若シ金利六銖ノ時ニハ其

價實ニ三拾壱「セント」ナリト

是レ「プロフヱッソル、ソムナー」氏ノ論ノ如キ此ボノ銀行紙幣ヲ元入レ視スルモノニシテ原來銀行紙幣ヲ其主眼タル甲ヨリ乙乙ヨリ丙丁等ニ轉傳セシ通用貨視ヤザルノ論ナリ

「ホルトン」氏ノ如キ其所見ヲ亦「スミス」氏ノ所論トヒフシ其著述「シルバー、ヱンド、ゴールド」ト題セル書中第六十一「ペイデ」ニ米國「グリヱンベッキ」紙幣ノ事ヲ論シテ曰ク「グリエンベッキ」紙幣ハ將來金貨ヲ以テ拂渡サレンヨリモ銀貨ヲ以テ之レヲ目下ニ拂渡サルヽ方却テ希望スル所ナリト「ホルトン」氏所論ノ如キハ余輩之レヲ米國今日ノ顯像ニ決シテ視ザル所ナリ知ラスヤ現今ノ紙幣相場ハ実ニ「ホルトン」氏ノ

所論ト相反對スルヲ「リカルド」氏ノ曰ク實ニ「ドクトル、スミス」氏ハ殖民地發行紙幣ノ下落ヲ其發行高ノ巨額ナルニ歸セスシテ其殖民地發行紙幣ノ抵当ヲ充分完全完備ノモノトセバ今ヨリ十五ヶ年後ニ至リテ拂渡スベキ壱百封度ノ紙幣ハ今即時ニ拂渡スベキ壱百封度ノ紙幣ト同價ナルヤ否ヤヲ問フモノナリ余輩此「スミス」氏ノ問ニ答テ若シ其發行額ノ餘リ巨額ナルニアラザレバ然リ同價ナルベシト云ハント「リカルド」著書「ポリチカール、ヱコノミイ」ヨリ拔出ス

「リカルド」氏ノ此所論寔ニ斯ノ如シ然リト雖モ此所論ハ前編已ニ損傷貨幣ノ事ニ關シ開陳セシ論説（本書第百九十七「ペイデ」ヨリ第二百四「ペイデ」ヲ參看スベシ）ヲ

以テ精々保護ヲ加ヘザルベカラス其論説トハ他ニアラス乃チ仮令ヒ其損傷貨幣ヲ如何様ニ人々嫌疑シ人望ニ副ハザル「アルトモ貨幣ヲ放擲シテ品物交易ノ旧制ニ復帰スル程ノ勢ニ至ルモノニアラス然ルヲ若シ斯ル場合ニ至ルニ及シテハ自在ニ流通スル全價ノ正貨ハ超過セスシテ紙幣若クハ又損傷貨幣ノ内大ニ超過シソレガ為メ隨テ其價格ノ下落ヲ来ス「是レナリ

凡ソ貨幣ヲ人々ノ嫌疑シ人望ノ副ハザルヨリ之レヲ放擲シテ品物交易ノ制ニ復帰スルガ如キハ是レ寔ニ尋常在ルナキノ事ナリ「ッーク」氏其著述「ヒストリイ、オフ、プライシスト題シ千八百三十九年ヨリ四十七年ニ至ル迄ノ諸物價昇降ノ沿革ヲ記セシ書中

第百七十七「ペイヂ」ニ論シテ曰ク信憑ノ厚薄ハ不換紙幣ノ價格ニ昇降ヲ生スルノ最大源因ニアラスト

右ノ損傷紙幣ノ事ニ関スル論説ハ不換紙幣ノ如何ヲ討論スルニ当リテ論者往々毫モ顧慮セス措テ問ハザルモノナレ氏是レ此論説コソ寔ニ緊要重大ノ件ナリ

然レバコソ「プロフヱッソル、プライス」氏ハ其著述「プリンシプルス、オフ、カーレンシー」ト題セル書中第百五十六「ペイヂ」ニ論シテ曰ク凡ソ公衆ハ日々百般ノ賣買上ニ於テ必ラス紙幣ヲ要求スルモノナリト猶ホ引続キ同書第百五十七「ペイヂ」ニ論シテ曰ク仮令ヒ令法ヲ設ケ令ヲ布ヒテ以テ紙幣ヲ拂フヿヲ禁スルトモ紙幣流通ノ制限上ニハ毫モ之レガ為メニ差異ヲ生スベカラザルハ瞭然タリ詰リ紙幣ハソノ物

ハ通用ノ道スラ擴張スレバ仮令ヒソノ紙幣ハ需求
次第拂フヘキモノナルトモ否ラザルモノナルトモ
毫モ関係ナキモノトスト
抑モ論者アリテ不換紙幣ナルモノハ大概交換紙幣ノ
衰頽壞廢ヤシニ由来スルト云フト雖モ史冊ニ徵スルモ決シテ斯
ル類例ヲ視ザルヿヲ余輩已ニ前文ニ開陳シ置キタリ
サレバ余輩ハ本編不換紙幣ノ論ヲ了リ次編ナル第三
部交換紙幣ノ論ニ説キ及ホスヘ俟テ具サニ交換紙幣
ノ類例ヲ擧ケ詳論スル所アルベシト雖モ暫ラク今余
輩ヲシテ爰ニ考察辨論スル所アラシメヨ
余輩ハ今爰ニ凡ソ戰乱ノ費用ニ供シ若クハ無事ノ支
途ニ充テ若クハ又事ニ依リ過多廉價ナル交換ノ媒介
物ヲ備フル等國家ノ急務ニ應スル為メニ政府ヨリ発

行ヤシ紙幣ニ付テ論スベシ而シテ其紙幣ハ政府之レ
ヲ合法貨幣ト定メ凡ソ民間相互ノ諸負債等ノ拂ヒ方
ハ勿論其他凡ソ人民ヨリ政府ヘ納ムベキ諸税其外ノ
返納金等ヲ拂入ルヽニ当リ之レヲ差出セバ大蔵省ハ
異儀ナク之レヲ受取ルベキヿト定ムルモノナリ而ル
ニ其紙幣ヲ其國正金ト交換スヽキ約束等何等ノ設ケ
モ之レナキモノトス
支那政府ニ於テハ其政府発行ノ紙幣ヲ租税等ノ拂
ヒ方ニ受取ルヿヲ拒ミシヨリ支那紙幣ノ流通上ニ
如何ノ結果ヲ波及ヤシカハ本書第三百三「ページ」ノ
附録ニ就テ参看スヘシ
抑モ不換紙幣ナルモノハ以テ物價ヲ量ルノ標準トナ
ルニ足ル乎否ヤ

余輩ハ今爰ニ至リテ已ニ本書第壱編ニ論セシ貨幣要務ノ説明ニ遡リ猶ホ再考ヲ要スルノ点ニ達セ而ルニ其節已ニ物價標準ノ論ヲ再ヒ説キ起スヲ要スルアルベキ旨ヲ前言シ置キタルナリ（本書第九第十ノ両「ペイヂ」ニ就テ参看スベシ）

凡ソ正貨タルモノハ其物已ニ含蓄固有ノ報酬乃チ同價ヲ存スルノ貨幣ナレバ固ヨリ其貨幣中ニ價格ノ在ルアリ故ヲ以テ其貨幣ハ以テ物價ヲ量ルノ標準タルニ足ル猶ホ馮尺ガ物ノ長短ヲ量リ「ブッシエル」量器ガ物ノ度量ヲ量ルガ如キトノ考ヒハ已ニ世ニ生シ殆ト世界一般ノ承認スル所トハナリタリ

斯ル貨幣ハ物價ヲ量ルノ標準タルニ足ルヤ否ヤノ論ハ已ニ前文全價ノ正金ノ「ヲ論スルニ當リ此問起リタレトモ毫モ損傷スルトキ全價ノ正金ヲ基トシテ此論ヲ起スハ左マデ緊要ノ「ニアラサルヲ以テ暫ラク之レヲ論ヤザリキ

然ルニ其後全價ノ正貨ソ「ヲ論了シ鑄造料ノ主旨ニ論及シ停ラ流通ノ損傷貨幣ノ「ヲモ併ヤテ論セシ時ニ当リ復タ斯ル損傷貨幣ハ如何シテカ能ク物價ノ標準タルニ足ルカノ問ヲ起セリ（本書第百九十「ペイヂ」ニ就テ参看スベシ）然レトモ此時ニモ亦暫ラク其問ニ答フルヲ見合ヤ議論ヲ延引シ置キタリ

依テ余輩猶ホ一歩ヲ進メテ貨幣ノ原理ニ付調査セント欲セバ今ノ時コソ爰ニ此ノ之レ迄ニ延引シタル疑問ニ應シ確答ヲナシテ以テ其如何ヲ明決ヤスレバアルベカラス

今此疑問ニ應シ公明正大ノ明決ヲ下サンガ為メ余輩ヲシテ此主旨ニ付已ニ本書第一編ニ引用シ来リタル諸經濟家ノ所論ヲ再ヒ左ニ寫出セシムベシ

「プロフヱッソル、ゼボンス」氏ハ其著述「モニー、ヱンド、ゼ、メカニスム、オフ、ヱキスチヱンヂ」ト題セル書中第五六両「ペイヂ」ニ論シテ曰ク凡ソ百般ノ交易ハ如何ナル割合ヲ設ケテ以テ之レヲナスモノナル乎ト云々

又曰ク抑モ何斤ノ牛肉ヲ以テ何匁ノ麻ニ代ヘ一種ノ品物幾干個ヲ以テ他ノ品物幾干顆ニ換ヘ得ヘキ乎ト云々

凡ソ品物交易ノ制度行ハル、世ニ在リテハ蓋シ彼ノ物價表ナルモノハ最モ乱雑ヲ極ハムルモノタリトス其然ル所以ハモノハ他ナシ各品各物トモ何レモ相互ノ品量ニ依リテ其相場ヲ何ヲ定ムルモノナレバナリ又否ラザレバ三品ノ相場ヲ對照比較スルノ乱則ヲ要用トスレバナリト云々

品物交易ノ制斯ノ如ク夫レ不便ナリ然ルニ凡ソ種類ノ何タルヲ問ハス宜シク一種ノ品物ヲ拔選シテ以テ其品物ノ自他諸物品ニ對スル交換價如何ヲ定ムレバ渾テ斯ル不便ヲ避クルニ足ルト云々

斯ノ如ク拔選シタル品物ハ乃チ一般ノ目安トナルモノナリ猶ホ其意ヲ詳約セバ乃チ物價一般ノ標準トナルモノナリ凡ソ吾人ガ自他百般ノ物價如何ヲ算定スルニハ乃チ此標準ニ據テ以テ判定スルガ故ニ諸物價ヲ對照比較シ得ル最モ容易ナリト

又「プロフヱッソル、ローガー」氏ハ其著述「ポリチカール、

ヱコノミイト」ト題セル書中菓二十二「ペイザ」ニ論シテ曰ク凡ソ人間社會ノ狀況稍々進歩シテ純粹ナル蛮野ノ域ヲ脱シタルノ上等社會ニ在リテハ必ラス物價ノ標準トナルニ足ル物ノ必用ナルハ深ク考ヒザルモ其理ヲ悟ラント云ヒ

又曰ク仮令ヒ通用貨タル者ハ其物自ツカラハ食フベカラス飲ムベカラザルノ物ナリト雖モ猶ホ且ツ一種ノ記號（シムボル）乃チ筭法（カルキユラス）トナスニ要用ナルモノナリ吾人ガ物價一般ノ標準ヲ要スル猶ホ吾人ガ長短度量ノ量器ヲ要スルガ如シト

猶ホ亦「ミル」氏ニ品物交易ノ不便ナル「ヲ論セリ其文ニ曰ク凡ソ品物交易ノ不便中最大著明ナルモノハ乃チ各種物品ノ價格ヲ量ルベキ一般ノ標準ノ之レナキ「是レナリ請フ近ク例ヲ引テ之レヲ証セン」ニ爰ニ仕立屋一人アリ僅ニ衣類而已ヲ所持セン」ニ麵包若クハ馬一頭ヲ買入ント欲スルアラハ其仕立屋ハ此際ニ當リ衣類一枚ニ付幾回ノ麵包ヲ受取ルベキヤ又馬一頭ニ付衣類何枚ヲ渡シテ可ナルヤヲ判定スルニハ極メテ困難ヲ覺フベシ

凡ソ何品物ニ限ラス仕立屋ハ其所持ノ衣類ヲ以テ諸種ノ品物ト交易スル都度々々別ニ其物價ノ如何ヲ計筭スルノ勞ヲ取ラスンバアルベカラス然ルカ故ニ苟モ物價ニ普通ノ相場ヲ視ルナク又恒定ノ相場立ツルアタハスサレバ品物交易ノ不便推シテ知ルベキ而已然ルニ今ヤ爰ニ凡ソ各品各物トモ其相場ヲ通用貨ニテ相定メ仕立屋ナレバ其所持ノ衣類ヲ筭定スルニ

或ハ四封度或ハ五封度トナシ又量目四磅ノ麵包ヲ或ハ六「ペンス」或ハ七「ペンス」ト箕定シテ以テ須ラク困難ヲ免ル、モノナリト

此貨幣ノ要務ニ関シ以上ノ諸家ト虽モ往々其論説中ニ錯乱ヲ免レザル「ニ付テハ余輩已ニ本書第壱編ニ於テ長文ヲ綴リテ具サニ論了セリサレバ讀者必ラス記臆スベシ凡ソ考按ノ精確穩當ナルニ富ミ發言ノ綿密詳明ナルニ秀テタル此等ノ諸經済家ハ何レモ社會ニ諸物價ノ標準トナルニ足ル物ノ要用ナル」ヲ論シ「セボンス」氏ハ之レヲ一般ノ目安(デクミネイトル)トシ「ミル」氏ハ之レヲ計算ノ單位(ユニット、オフ、カルキユレイシヨン)トシ「ローガー」氏ハ之レヲ記號(シムボル)トシ以テ物價ノ標準トナルハ乃チ貨幣タル物ノ一要務ナル」ヲ立刻ニ決セリ「プロフヱッソル、ボウエン」氏ノ如キモ亦之レヲ貨幣ノ最大要務トセリ

「プロフヱッソル、ボウエン」氏ノ所見ニ由レバ凡ソ吾人ハ貨幣ナルモノアリテ以テ交換ノ媒介物トナルヲ俟サルモ日常賣買交易ヲナシ得ルナリ而シテ如何ナル種類ノ媒介物ヲ使用スルヲ俟ザルモ甲ノ品物ヲ乙ノ品物ト品物交易ヲモ為シ得ルナリ夫レ然リ然リト虽モ吾人ハ貨幣ノ在ルアリテ以テ凡ソ萬般ノ標準乃チ物價ノ標準トナルニアラザレバ日常ノ賣買交易等ヲナシ能ハザルナリト

若シ貨幣ヲ以テ愈物價ヲ量ルノ標準トナサバ凡ソ物ノ長短ヲ量ルノ馮尺、度量ヲ量ルノ「プッシヱル」量器ガ各ソノ物ニ長短アリ度量アルガ如ク貨幣ニモ亦其價格ナクンバアルベカラザルハ実ニ「プロフヱ

ッソル、ボウエン」氏所論ノ如キナリ

「プロフエッソル、ボウエン」氏ハ其著述「ポリチカール、エコノミイ」ト題セル書中第二百九十三「ペイヂ」ニ論シテ曰ク凡ソ標準トナルモノハソレニ依リテ量リタル物ト同種同類ノモノタラザルベカラス乃チ例ヲ引テ之レヲ証セン凡ソ物ノ長短若クハ度量ヲ測ル量器ハ其物自ッカラ長短度量ナクンバ在ルベカラスサレバ凡ソ物ノ価格ヲ量ルノ標準トナルモノニモ亦齊シクソノ物自ッカラニ価格ヲ備ヘザルベカラスト

又「プライス」氏ハ其著述「プリンシプルス、オフ、カーレンシイ」ト題セル書中第三十九第四十ノ両「ペイヂ」ニ論シテ曰ク若シ貨幣ノ在ルアリテ以テ物価ノ標準トナルニアラズンバ如何シテカ能ク仕立屋ハ其所持ノ衣類ニ對シ幾許片ノ麵包ヲ受取リテ相当ナルヤヲ明知センカ又瓦師ハ如何シテカ能ク衣類ノ代ニ充テン為メニ幾許ノ瓦ヲ製造シテ相当ナルヤヲ知ランカト云々

又曰ク貨幣ハ以テ凡ソ物價ノ標準タル至便ヲ備具セルモノナリ貨幣ハ以テ各品各物ノ相對應スル價格ヲ明知スルノ便ヲ與フルモノナリ各品各物ノ相場ヲ斯ク對應比較スルニハ恰モ馮尺アリテ物ノ長短ヲ比較シ「プッシヨル」量器アリテ物ノ輕重ヲ判定スルト同種同類ノ術ヲ施シテ之レヲナスモノナリト

凡ソ萬般ノ目安トナル物ハ必ラス物價ヲ標準トナル

物ニアラザルヿハ余輩已ニ前文ニ之レヲ論了セリ（本書第七「ペイチ」ヨリ第十「ペイヂ」ヲ參看スベシ）然リト雖ドモ余輩今亦一歩ヲ進メテ少シク此事ニ論及セン

熟〻貨幣ノ要旨ニ関スル諸書ヲ閲覧スルニ初交易ノ類例ヲ擧ケタル中殆ント皆甲ノ一商賈ト乙ノ一商賈ト賣買取引スル例ヲ引テ論スルヲ常トセリ依テ余輩モ今爰ニ此ヲ甲乙両商賈ノ現ニ賣買取引スル例ニ付テ而已論セン請フ讀者夫レ之レヲ諒セヨ

夫レ此等ノ両商家ハ或ハ帽子屋ナリ或ハ麺包屋ナリ或ハ仕立屋ナリ毫モ其業ノ如何ヲ措テ問ハス夫レ然リ然シナカラ斯ノ如ク其業ノ如何ヲ問ハザルトキハ却テ精密詳明ノ内澤ヲナスニ難カラン乎又凡ソ工業社會ノ文物稍〻進歩シテ苟モ貨幣ヲ其社會ニ視ル如キ

モノニ於テハ多少トモ〻貿易ノ競爭ナルモノ是レアラザル乎此等ノ事ハ暫ラク措テ論セスシテ余輩ハ方サニ仕立屋ナリ帽子屋ナリ麺包屋ナリ凡ソ何等ノ業務ニ限ラス只一業一務ニ而已從事セル商家ニ付テ論スル所アラン余輩カ畢竟斯ノ如クナス所以ノモノハ他ナシ両名ノ仕立屋アリ両名ノ帽子屋アリ両名ノ麺包屋アリ又ハ三名又ハ五名アリテ詰リ「プロフヱッソル、ゼボンス」氏ガ凡ソ物ノ何タルヲ問ハス一種ノ品物幾許ヲ以テヤバ他ノ品物幾許ニ相当セルヤト問ヒシモノニ應答スルニ堪フルヨリモ類例ノ多ケレバナリ」又「ミル」氏問フテ曰ク仕立屋ハ其所持ノ衣類一枚ニ應シ麺包幾許ヲ受取リテ相当ナルカ又仕立屋ハ馬一頭ヲ買入レンニハ其衣類幾枚ヲ投シテ相當ナルカト

余輩之レニ答テ曰ク仕立屋ハ蓋シ其麺包屋ガ当時其市町ハ論ナク其近傍諸市町ノ麺包屋連中ヨリモ衣類ヲ所望スル一層切ナルヨリ仕立屋ヶ賣ラントスル衣類ニ對シテ仕立屋ニ付与スル丈ケノ麺包ヲ受取リテ相当ナリト又答テ曰ク仕立屋ハ其所持ノ衣類ヲ以テ馬一頭ヲ買入レントスルニハ其相当ト見込ム丈ケノ衣類ヲ渡シテ相当ナリト蓋シ馬ノ所持人ハ幾人トナク諸方ノ仕立屋ヲ巡リ衣類ノ相場如何ヲ聞合セタル後銘々其仕立屋ニ至リテ以テ其衣類ヲ最下ノ相場ニ見積リ今仕立屋ガ要望スル馬一頭ハ幾枚ノ衣類ニ相當スルカヲ判定スルモノナリト

然ルニ今以上縷陳セル如キ交易ノ用途ニ供スルニハ如何ナル物價一般ノ標準ヲ要用ナリトスル乎

抑モ百般ノ交易上ニ於テ貨幣ヲ以テ物價ノ標準トナスヲ要スル所以ハ乃チ左ノ理ニ是レ因ルモノナリソハ他ナシ凡ソ人々銘々ニ其手離サント欲スル物若干ヲ所持シ居リ又其手ニ入レント欲スル物數種アルガ故ニ其運勉拮据ノ結果ヲ以テ得ント欲スル諸種物品ハ其製産ノ為メニ幾許ノ勞役ヲ費セシモノナルカヲ判定スルヨリモ一品即チ貨幣ヲ製産スル為メニ費シタル勞役ノ多少ヲ却テ容易ニ裁定シ得レバナリ然ルニ各製産者ハ又此一品即チ貨幣ノ含有スル勞役ニ依リテ以テ其製産物中ニ含有スル勞役ノ多寡ヲ對照比較シ得ルモノナリ爰ニ於テカ貨幣ハ以テ千種萬品ノ價格ヲ量ル一般ノ標準トナルモノナリ凡ソ諸物品ノ價格ハ斯ク貨幣ヲ以テ其如何ヲ量リ初メテ物品相互ニ

ニ其價格ヲ對照比較シ得ルモノトナルカリ

凡ソ物價一般ノ標準ナル語ハ仮令ヒ如何ナル意義関係アレバトテモ其意ハ只物價ノ標準ト云フ「丈ケニシテ其意義苟モ之レヨリ少ナカラス苟モ之レヨリ多フカラス

「プロフエツソル、プライス」氏ハ其著述「プリンシプルス、オフ、カーレンシイ」ト題セル書中第百五十九「ペイヂ」ニ論シテ曰ク凡ソ諸品物ノ製産價ハ乃チ金ノ製産價ニ由リテ對照比較スルモノナリト

物價ノ標準トハ云ヒナガラ此標準ナルモノハ仮令ヒ理論上ヨリ論スルモ凡ソ市場ニ輻輳セル諸品物ノ相関スル價格ヲ判定スルノ術ニハアラス其然ル所以ノモノハ他ナシ凡ソ萬般諸品ノ夫々交易セラル、其

相場ハ一々供給ト需求トノ関係如何ニ是レ由リテ一定スルモノナレバナリサレバ経濟学士ノ言ニ凡ソ貿易ノ理ニ依リテ以テ甲ノ勞役十ノモノハ乙ノ勞役十ノモノト交易シ一ハ一、二ハ二ト交易スルヲ常規トナスト云ヒシハ詰リ左ノ事ヨリハ毫モ深キ意味ノ在ラザルヿナリソハ他ナシ現ニ供給ト需求トノ関係在ルアリテ以テ一業ニ費セシ勞役ノ結果ハ他ノ一業ニ費セシ仝様ノ勞役ノ結果ト互ヒニ寸分毫厘ノ差違損毛ナク交易スル能ハザルヿアレバ其交易上ニ於テ斯ク不利益ヲ被ムル職業ハ其資本勞役トモ交易上ニ於テ斯ク利益ヲ受クル職業ニ轉変シテ両職業ノ間平等ニ復スルマデハ休止スルヿ勿ルベシト云フニ過キザルヿ是レナリ

抑モ勞役職業ノ轉変相起リ相生スルハ凡ソ職人タル者ガ何ニカ一業ニ從事シテ其心身ヲ安慰シ其奢侈ヲ極ハメ其人生ノ有要欠クベカラザル日用諸物品ヲ得ルヨリモ其業ヲ轉シ更ニ他ノ業務ニ從事スル方却テ一層ノ安樂愉快ヲ増スヿヲ其明視察知スル時ニ在ル而已苟モ然ルトキハ最前ノ職業ヨリスル製産物ノ供給ハ減少ニ就クガ故ニ自ツカラ其職人ノ給料昇リ随テ其價格モ騰貴シテ以テ他ノ職業ニ從事セル職人ノ給料ト同一ニ至ルベキモノトス

今ヤ現ニ貨幣ナルモノヽ在ルアリテ以テ物價一般ノ標準トナルノ便アルヲ以テ大工職人ハ其鄰家ナル鍛冶職人ヨリモ飲食衣類ノ用ニ供スル日用諸品ヲ受取ル高多キヤ少ナキヤヲ判定スルニ最モ容易明瞭ナリ

トス

扨又右ノ大工職人ハ凡ソ日ニ週ニ年ニ其家ヘ買込ム諸種物品ノ供給トノ間ニ就テ詳密ノ比較ヲ取ルハ太タ難事ナルベケレモ此大工職人ニシテ若シ鄰家ナル鍛冶職人ハ一日ニ壱円二十五銭ヲ受取ルニ大工職人ノ受取ル所ハ僅ニ壱円二十銭丈ケニスラ過キザルヿヲ察知シタランニハ大工職人ハ立刻ニ明知スベシ鍛冶職人ノ業ハ其大工職ヨリモ一層利得ノ多キ幾許ナルヲ是レ之レヲ察知スルヲ得ルハ畢竟貨幣ノ在リテ以テ物價一般ノ標準トナルノ便アルニ由ルナリ

斯ノ如ク夫レ論スルトハ蚤モ彼ノ凡ソ甲ノ物ト乙ノ物ト丙ノ物トハ其勤勞ヲ貴セシ高同段ナルガ故ニ差

建増減ナク同段ニ交換シ得ルトノ論ノ如キハ爰ニ断
乎トシテ之レヲ廃擲セスンバアルベカラス已ニ前文
ニ引用シタル如ク「プロフエッソル、ゼボンス」氏ガ凡ソ
一旦貴シタル勤労ハ如何ナル品物ニ限ラス其将来ノ
価格ニ毫モ影響スル所ナシト云ヒシハ凡ソ交易ノ長
短廣狹ニ拘ハラス能ク適用セルモノナリ請フ近ク例
ヲ引テ之レヲ証セン凡ソ物品ハ何等ノ種類ニ限ラス
僅ニ其製産品ノ半價丈ケニスモ交易セラルヽモノ間
々アリ又物ニ依リテハ却テ其製産費ヨリモ二倍方モ
高價ニ交易セラルヽモノモ往々ニ之レアリトスナレ
バ交易ノ道ハ取リモ直サス一ニ一品ノ需求ト其供給
トノ多寡増減如何ニ由リテ相定マルモノナリ
凡ソ物ノ製産費ハ僅ニ其物ノ供給上ニ影響ヲ波及ス
ル迄ニ過キス話リ既往ノ製産費ハ以テ現在ノ供給ヲ
制定シ現在ノ製産費ハ以テ将来ノ供給ヲ制定スルモ
ノナリ
凡ソ物ト物品ト品トノ交易上ニ於テ前論ノ如ク夫レ
然リ然ラハ亦品物ト貨幣トノ交換上ニ於テモ矢張リ
同然タラスンバ在ルベカラスサレバ銀塊壱「オンス」ヲ
以テ小麦壱「ブッシエル」ヲ買入レ得ルトモ是レ決シテ
銀塊壱「オンス」モ小麦壱「ブッシエル」モ双方トモニ齊シ
ク一日ノ勤労ヲ費シタルガ故ニアラス蓋シ今日「ロー
リユーム」ニ於テハ小麦拾貳「ブッシエル」ヲ製産スルニ
必要ナル勤労ヲ以テセバ二千年以前ヨリモ一層多ク
ノ銀塊ヲ産出シ得ベシ小麦ハ亦今ハ昨年ニ比スレバ
半價モ高相場ニ販賣セラルヽベシ畢竟スルニ是レ欧

洲ノ二大國ガ凶歉ノ災ニ罹リタルヨリハ別ニ其理由ノアルナシサレバ品物ト貨幣トノ交易モ亦是レ一ニ供給ト需求トノ多寡増減如何ニ依リテ相定マルモノナリ詰リ現在ノ製産費即チ今日ノ勤勞ハ唯僅ニ將来ノ供給ヲ影響スル迄ニ過キザルナリ

然リト雖モ此「プロフヱッソル、ゼボンス」氏論スル所ノ虚妄タルヲ証センガ為メ猶ホ一歩ヲ進メ暫ラク余輩ヲシテ凡ソ品物ヲ製産スルニ付テ費シタル勤労ノ多寡ハ品物交易上ニ於テ真ニ各品各物相互ヒニ之レヲ量ルモノナリ而シテ其量リタルモノヲ以テ交易ノ基礎トナス「ト假定セシムヘシ押モ仕立屋ハ其所持ノ衣類ヲ投シテ以テ幾許ノ麺包ヲ受取リテ相當ナルカヲ如何シテ証明センカ又瓦師ハ幾許ノ瓦ヲ製造シテ

以テ其衣類ノ代ヲ償フニ足ルカヲ如何シテ明知センカトノ「プロフヱッソル、ブライス」氏ノ一問ニ應シテ余輩カ答詞ヲ呈シ得ルハ即チ爰ニ在ルナリ請フ看ヨ凡ソ如何ナル種類ヲ問ハス現在世界ノ通用貨幣タル金銀ノ両者程ニ物價一般ノ標準トナルニ適應セル物品ヲ別ニ發明シ得ベキ乎蓋シ金銀ヲ措テ外ニ其レ程ニ標準タルノ用ニ適合スル物ハ勿ルベシ何トナレバ抑モ第一ニハ金銀ナルモノハ其産出ヲ左右スル一種特別固有ノ事状アルノミナラス猶亦金銀貨幣ノ購買力ヲ制定スル格別ノ理由アルニ依リテ事ニ依リ金銀ノ價格ハ數百年餘モ其産出費ヨリ低キヿモアリ又或ハ數十年間有餘モ其産出費ヨリ高キヿモアルハ是レ実事ニ徴シテ明ラカナレバナリ

(本書第二百四十六「ペイ

ヂ」マデヲ参看スベシ

第二ニハ余輩左ノ如ク明言スルモ決シテ誣言トナスベカラスソハ他ナシ凡ソ世上一般ノ人々ガ金銀ノ両者ノ據テ以テ市場ニ携帯セラル、産出費ノ状況如何ヲ知ル寔ニ淺クシテ此等ノ人々ガ其日常取扱ラナス萬般諸品ノ内二十分ノ十九ノ（百分ノ九十九ト云フ迄ニハ至ラザレ𪜈）據テ以テ産出セラル、状況如何ヲ知ルガ如クニアラスト云フモ不可ナカルベシ

殆ト何人タリトモ小麥ナリ家蓄ナリ衣類ナリ椅子ナリ其製産費ニ付躬自ツカラ多少ノ事ハ之レヲ知リ得ベシ又或ハ其事ニ付多少ノ考ヲ起スヿモアルベキナリ

凡ソ何人ニ限ラス其人ハ物品ヲ買入レントスルニ當リ猶ホ金銀ノ産出如何ニ於ケルガ如ク其物品夫々ノ産出費如何ヲ知ル寔ニ淺キ𪜈ハ之レヲ買入ル、高ノ僅々ニ止マル推シテ知ルベキ而已

凡ソ何人タリ𪜈其販賣セント欲スル品物ヲ製産スルニ付テ費シタル勤労ノ多寡ヲ比較スルニハ印度洋諸島内ニ於テ香料ヲ産出スル為メニ費シタル勤労ヲ以テセバ却テ其比較ヲ金産出ノ勤労如何ニ取ルヨリモ一層ノ好機會ヲ得ル際限ナカルベシ其然ル所以ノモノハ他ナシ抑モ金ハ其産出地啻ニ遠隔セル而已ナラス猶且ツ容易ニ其地ニ近附難キノ不便アリ又其産出地轉変シ随テ其状況ノ一変スル世々然ル而已ナラス猶ホ年々ニ然ラザルハナキガ故ニ其産出額モ増減常ナク寔ニ不規則ヲ極ムルアレバナリ

余輩意フニ貨幣ヲシテ物價一般ノ標準トナスノ論ハ
実ニ奇怪ニ妄想ノ極ナリトス是レ此論ノ如キハ實
ニ左ノ一言ヲ以テ其誤解タルヲ証スルニ足レリソノ
言トハ他ナシ抑モ物價トハ乃チ物ト物ト相對スル関
係ヲ云フニ過キザルヿ是レナリ凡ソ物ト物トノ関係
ハ之レヲ口ニ発シ言ニ述フルヲ得ルモ之レヲ量ルベ
カラス猶ホ近ク例ヲ引テ之レヲ証セバ一里ト一「フオ
ルロング」我百十間二尺四寸三分トノ関係ハ得テ量ル
ベカラス然レドモ之レヲ口ニ發シ言ニ述レバ一ニ付ハ
ノ関係トハ云ヒ得ルナリ夫レ関係ノ口ニ發シ言ニ述
ブベクシテ量ルベカラザル寔ニ斯ノ如シ
凡ソ何品何物ニ限ラス其物ニハ「プロフヱッソル、ボウ
ヱン」氏ガ所謂實價ト云ヒ「テバリイル」氏カ所謂其物固

有ノ同價即チ報酬トナルベキ物アルニアラザレバ如
何ナル物品ト雖ドモ如何シテカ能ク百般ノ交易上ニ於
テ一般ノ目安タルノ要務ヲ遂クルニ足ラン乎
今此問ニ應答スル為メニ余輩ハ損傷償幣ノ如キ実ハ
其名称相當ノ金銀ヲ含有セザルモノヲ引用セスサラ
バトテ又銀行紙幣ノ如キソノ物ハ需求ニ應シテ正貨
ヲ拂渡スノ約アリテ已ニ若干ノ正金ヲ豫備シ置キテ
以テ其交換ノ用途ニ供スルモノヽ如キヲモ引証セス
シテ暫ラク一種ノ紙幣ニ就テ論及センソノ紙幣トハ
ソノ發行費ノ如キ殆ト有レドモ無キガ如シト虽ドモ
カラ禁令ノ在ルアリ否ラザレバ又法ヲ布キ禁令ヲ立
テヽ以テ其發行額ヲ制限セラルヽノ紙幣是レナリ
請フ近ク爰ニ例ヲ引キ右ノ紙幣ハ奇々妙々ノ色取リ

ヲシタル紙片ニシテ而モ其紙表ニ政府ノ官印ヲ押捺シ若シ之レヲ贋造スル者ハ厳罰ニ処スルノ紙片ニスラ過キザルモノトシ且ツ右ノ紙幣ハ政府ニテ約ヲ設ケテ償還スルヲ要セザルモノトスベシ又右ノ紙幣ハ恰モ往昔我殖民時代ノ紙幣ノ如ク其表面ニ唯五「ドル」「ルトアリ又ハ五「シルリング」トアル而已ニ過キザルモノトスベシ

扨法ヲ設ケ令ヲ布キテ以テ右ノ紙幣ヲ合法貨幣ト定メ民間相互ノ諸負債ノ拂方取引上等ニ於テ疑念ナク授受スベキモノト定メタルヨリ右ノ紙幣ニ需求ヲ創起セリトスベシ或ハ又諸税ノ納メ方ニ於テ右ノ紙幣ヲ受取ルベキ令ヲ政府ヨリ發セシヨリ又以テ其需用ヲ創起セリトスベシ或ハ又右ノ紙幣ハ矢張リ交換ノ媒介トナルニ足ルベキトノ考ヲ世上一般ニ来セシヨリシテ其需用ヲ創起セリトスベシ

「アダム、スミス」氏ノ言ニ曰ク凡ソ君主國王タル者ハ諸税ノ拂ヒ方等ニ於テ其國ノ紙幣ヲ受取ルヨリシテ其紙幣ニ若干ノ價格ヲ与フルヿアルベシト

以上縷陳スル所ノ如キハ決シテ架空無根ノ考察ニアラス必ラス実際ニ徴シテ然ルモノアリ請フ一例ヲ引テ之レヲ証セン

今日此世ニ在リテ現ニ吾人ガ目撃セル如ク斯ル一種ノ紙幣ハ諸社會ノ通用貨トナリ現ニ異儀ナク自在ニ流通スルモノ擧ケテ数フベカラザルニアラスヤ抑ヘ右ノ如キ色取リヲシタル紙片ノ流通ヲ来ス迄ニハ最初ハ如何ノ取計ヲナシタルトモ其邊如何ハ措テ問ハ

ス今日石ノ紙片ノ世上ニ流通スル所以モノハ詰リ
人々カ其販賣ヤント欲スル品物ノ代料トシテ右ノ紙
片ヲ受取ルヿヲ好ミ又右ノ紙片ヲ以テ其購買ヤント
欲スル品物ノ代料ヲ拂ヒ得ルヿヲ知ルニ由ルト余輩
ハ想フナリ
斯ノ如シテ一旦右ノ紙片ニ需求ヲ創起シタル上ハ麪
粉幾許「バルレル」ノ多キモ牛馬幾許頭ノ多キモ靴幾数
足ノ多キモ凡ソ市場ニ輻輳スル物ハ皆右ノ紙幣ヲ以
テ容易ニ購買シ得ルモノナリ其然ル所以ハ凡ソ此等
諸物品ノ所有主タル者ノ平素ニ希望スル所今日ニ尽
カスル所以ハ其品物ヲ販賣シテ力ノ及フ丈ケ巨額ノ
紙片ヲ手ニ入レント欲スルニ在レバナリ然ルニ又右
ノ紙片ヲ所持スル者ノ情願スル所以勤労スル所以ハ

其所持ノ紙片ヲ投シテ力ノアラン限リ成ルベク丈ケ
巨量ノ小麥良製ノ靴精良ノ牛馬等ヲ買入レント欲ス
ルニ在レバナリ
抑モ斯ノ如ク交易ヲナスニハ凡ソ市場ニ輻輳セル諸
物品ノ間ニ交換相場ヲ定ムルヲ俟テ然ル後ニ此交易
ノ事生スルニアラスシテ何ゾヤ凡ソ紙幣ノ所有人タ
ル者ハ誰彼ヲ問ハス一頭ノ犢ニ拂フヨリモ牝牛ノ方
ニ高價ヲ出スヲ好ミ又瘦牛ヨリモ肥牛ノ方ニ高價ヲ
拂フヲ好ムハ是レ買受人ノ常情ナリ
夫レ斯ノ如クナルガ故ニ各品各物トモニ速ニ其交易
ノ面目ヲ改ムルニ至ルベシ即チ最初ハ甲ノ品モ乙ノ
品モ其交易上ニ於テ高低ヲ定ムル太タ粗ナリシモ歳
月ト共ニ漸々精密ノ域ニ達スルニ至ルベキハ照々タ

リ蓋シ最前ニ在リテハ小麥壱荷ノ代價ヲ拂フニモ矢張乳牛ニ拂フ丈ケノ同額ノ紙幣ヲ以テセシ「モ或ハナキニシモアラザリキ然リト雖モ斯ク物價ノ割合ヲ定ムル精密ナルニ至リテハ凡ソ牝牛ト小麥トヲ両ツナカラ所持セル農夫ニシテ牝牛ヲ養育シ小麥ヲ耕植スルノ勞費ヲ對照了知スル者千百人アレバ其内ノ八九分ハ必ラス小麥ヲ市場ニ携帶シ牝牛ヲ引キ來ル者ハ寔ニ其内ノ二三分ニ止マルベシ是レ紙幣ノ所持人印チ買受人ガ牝牛ニハ高價ヲ拂ヒ小麥ニハ低價ヲ以テスル迄ハ依然トシテ止マザルベシ斯ノ如ク両品ノ間ニ高低アルニ至リテ初メテ両品ノ價格ハ夫々其製産費ノ多寡ニ應シテ綿密ノ割合ヲ得ルニ至ルベキナリ

想像貨幣ノ事

（アイデアール、モニー）

余輩想フニ凡ソ百般ノ交易上ニ於テ物ト物トノ関係ヲ口ニ癸シ書ニ述ブルハ是レ貨幣ヲ一般ノ目安トシテ用ユルニ因ルモノナリトナス是レ所謂地金報告ノ言ニ付キ衆論囂々タリシ時ニモ千八百十九年ノ正金拂再行條例ノ出テシ時ニモ諸論者ガ英國ニ主張セシ「想像貨幣」ノ主義中ニ在ルモノニシテ終ニ「ポンド」ナルモノハ何物ナルヅト云フノ疑問ニ付彼ノ有名ナル大議論ヲ引起スニ至リタルモノナリ

「ビショップ、ベルケレイ」氏ノ言ニ曰ク抑モ英ノ「クラウン」貨ト云ヒ佛ノ「リイブル」貨ト云ヒ又英ノ「ポンド」貨ト云ヒ其他何ト云ヒ是レト云フハ畢竟名代物ト視做サスシテ何ヅヤ又金貨ト云ヒ銀貨ト云ヒ紙幣

ト云フモ此等ハ畢竟右ノ名称ヲ或ハ簒シ或ハ記シ
或ハ轉傳スルノ用ニ供スル切手類ニアラスシテ何
ゾヤ仮令ヒ貨幣ヤソノ地金ハ己ニ去テナキトモ
ノ貨幣ノ名称依然トシテ相存セバソノ貨幣ハ以テ
萬般諸品ノ相場如何ヲ量リ以テ賣買ノ用ニ供シ以
テ殖産ヲ奮起振興セシメ以テ確乎トシテ融通ヲ保
タスシテ將タ何ヲカセンヤト
近来想像貨幣ノ論ヲ主張スル學士論者ガ其泰斗ト
仰ク有名ノ経済学士ハ「サー、ゼイムス、スチユアルト」
氏乃チ其人ナリ
「ロールド、ローデルデイル」氏ハ其著述「デプレシヨー
ション、プルーブド」ト題セル書中第七十「ペイヂ」ニ論
シテ曰ク想像貨幣ノ如キ一種殊別ノ貨幣ヲ以テ一

國流通ノ用ニ供スルトノ主義ヲ証明スル為メ「サー、
ゼイムス、スチユアルト」氏ノ著書ヲ許多引用セリ「ト」
「リカルド」氏ノ建白書中第十四「ペイヂ」ニ曰ク熟ク余
輩想フニ一定固有ノ本位ナキ通用貨ノ考ヲ出セシ
ハ「サー、ゼイムス、スチユアルト」氏ヲ推シテ其祖先ト
ナス云ヘリ是レ「サー、ゼイムス、スチユアルト」氏ガ其平
生ニ固執主張スルニ汲々タル主義ト全ク相反シテ
此考按ヲ出セシモノニ係ルト
然ルニ「ロールド、ローデルデイル」氏ハ同書第十三「ペ
イヂ」ニ論シテ曰ク抑モ「サー、ゼイムス、スチユアルト」氏
ノ所論ヲ以テ苟モ正金ノ設ケナク毫モ名称ニ相当シ
ル價格ナキノ紙幣ヲ以テ一國ニ通用貨タラシムルニ
足ルトナスガ如キハ寔ニ事ノ実ヲ失スルノ最モ太タ

シキモノナレバ凡ソ実ニ能ク「サー、ゼイムス、スチユアルト」氏ノ著書ヲ学ヒ得タル人々ハ必ラス斯ル論ハ只々同氏ノ主義ニ乖戻シ其主義ノ是ナルヲ非ニ曲ケシモノタルヿト視做サスンバアルベカラス其然ル所以ノモノハ他ナシ凡ソ紙幣ハ其基礎トナルベキ或ル実價ヲ得スンバアルベカラス苟モ之レナケレバ紙幣ノ其表面ニ記載アル名称ニ應シ如何ナル本位價ヲモ定ムルヿモ得テ為スベカラストハ殊ニ同氏カ明言スル所ナレバナリト

余輩熟〻察スルニ「ロールド、ローデルデイル」氏モ又想像貨幣ノ主張論者モ両ツナガラ「サー、ゼイムス、スチユアルド」氏ノ所論ヲ見ルニ正邪併セ存セリトス請フ其然ル所以ヲ述ベン抑モ「サー、ゼイムス、スチユアルト」氏ハ其賢明ナル想像貨幣ヲ以テ萬般ノ交易ヲ行ヒ得ルトノ理論ヲ以テ満足スルニ止マラス實ニ想像貨幣ヲ以テセバ大ニ至便至益アルヿヲ主張シテ止マザレバナリ

「サー、ゼイムス、スチユアルト」氏ノ言ニ曰ク凡ソ何物ニ限ラス計算用ノ貨幣タル務メヲ遂グル物ニ付スルニ實價ヲ以テセバ成程便益バアルニ相違ナシト雖モソノ便益ハ其實價ノ動揺不定ナルヨリ却テ便益ヲ失フノ弊アリ又紙幣乃チ名代貨幣ナレバ一定不動ナルヨリ或ハ便益ヲ生スルアリト雖モ其紙幣ハ何時モ交換シテ実物即チ實價ニ為シ易ラザルノ欠事アルニ依リ又便益ヲ失フノ弊アリト

「サー、ゼイムス、スチユアルト」氏ハ亜弗利加沿岸ニテ

毫モ正金ノ何者タルヲ知ラザル「アンゴラ」邊ノ蠻族
社會ニ行ハル、貿易ノ習慣ヲ引キ曰ク
「アンゴラ」邊ノ蠻族ハ「マコーツ」ト称スル方言ニ依リ
テ物ノ員數ヲ計算スルヲ常トナス而シテ又其邊ニ
三ノ場所ニ於テハ此「マコーツ」ト称スル名称ヲ十小
別シテ「ピイス」トナスモノモアルナリ依テ壱「マコー
ツ」ハ即チ拾「ピイス」相當ナリ是レ此「マコーツ」ナルモ
ノハ又此等蠻族ガ日常品物交易ヲナスニ當リ量目
ヲ計ルノ用ニ供シ其多寡増減如何ヲ算定スルノ天
秤ナリ
「ロールド、ローデルデイル」氏ハ其著述「テプレシエー
ション、プルプド」ト題セル書中ニ論シテ曰ク抑モ「マ
コーツ」ナルモノハ綱細工ノ物ニシテ蓋シ土人之レ
ヲ身ニ掩フテ以テ虫害ヲ防クノ用ニ供スルモノナ
リト
然ルニ「サー、ゼイムス、スチユアルト」氏ヲ初メトシテ
其他兩三四名ノ論者モ彼地旅行者ガ「マコーツ」ナル
モノハ唯名目乃チ符號タルニ過キザル而已ト論ス
ル所ニ服セザルモノアリサレド熟々古今ノ著述書
ヲ閲スルニ「モンテスキユウ」氏ヨリ「ミル」氏ノ時代ニ
至ル迄其間萬巻ノ著書世ニ出テタレド皆此「マコー
ツ」ヲ引テ想像貨幣ノ例トナサザル「ハナシ
ル」ツ「サー、ゼイムス、スチユアルト」氏ノ反對論ヲ読ミ其
意義論旨ヲ誤解セシ人々ハ同氏ガ其書ヲ著述セシ
時ノ事状ヲ思想スルアラバ同氏カ計算用ノ貨幣ト流
通用貨幣（コイン）トノ間ニ如何ナル區別ヲ設ケシカヲ知ル

難ラザルベシ尚ホ更ニ其意ヲ詳明セバ千七百七十四年ノ再鑄造前ノ事状ヲ回顧スベシト云フノ意ナリ蓋シ當時方サニ通用貨ノ非常ニ損傷ヲ告クルノ機ニ際シ現ニ「ギニイ」貨ノ如キハ鑄造本位ヨリ減セシ「大抵一二割太ダシキニ至リテハ三割ノ多キニ及ヒ終ニ「ポンド」貨ナルモノハ抑モ何物ナルヅトノ一疑問ヲシテ實際ノ難題タラシムルニ至リタル時代ナレバナリ

「サー、ゼイムス、スチユアルト」氏其著述「ポリチカール、エコノミー」第三巻第二部第八編ニ曰ク英國貨幣ノ混雑紛乱セシヨリ「ポント」貨ノ本位ヲシテ全ク不定ノモノタラシムルニ至リタリサレバ「ポンド」ハ純銀千七百十八「グレイン」七ナリト云フモ其實ハ全ク想像ニスラ過キスト

爰ニ「サー、ゼイムス、スチユアルト」氏ノ論ヲ略言セバ同氏ハ所謂実價アル品物乃チ例セバ金ノ如キ物ヲ俄ニ本位ト定メテ以テ是レ迄遷延シタル萬般諸拂ヒ等ノ使用ニ供スル時ハ債主タル者ハ左ノ二源因ノ中一方ヨリカ若クハ双方ヨリ損害ヲ招クベキヿヲ主張セリ」

請フ先ツ第一ノ源因ヲ述ベン爰ニ壱「オンス」ノ金アランニ何ニカ影響ノ在ルアリテ其金ノ産出上ニ変動ヲ来シタルヨリシテ最前借主ガ債主ト約ヲ締結セシ時ヨリモ其労費一層減少スルヿアルヿアルベキナリ斯ル結果ノ影響如何ハ本書第四編ヨリ第七編ニ至ル迄編ヲ追ヒ章ヲ列テ續々論セシ金銀産出ノ沿革ニ遡テ参看スベシ

第二ノ源因ハ右ノ第一源因ニハ毫モ関係ナキモノニ

シテ乃チソレニ次クモノナリ凡ソ債主タル者ノ借主ヨリ受取ル貨幣ハ最前約ヲ結ヒタル比ヨリモ現ニ含分ノ一層減少ヲ来ス「アルベシソハ他ナシ貨幣ナレモノハ間断ナク世ニ轉傳流通スルガ故ニ自ツカラ摩耗スルカ否ラザレバ造幣寮ニ於テ尚ホ更ニ其質分ヲ減殺スレバナリ斯ノ如クシテ啻ニ貨幣ノ平均價ノ減少ニ就ク而已ニ止マラス猶且ツ年々歳々壊敗損傷ヲ来スノ割合極メテ不同ナリ近々例ヲ引テ之レヲ証セバ今爰ニ「ソベレーン」貨貳片「シルリング」貨二片アランニ右ノ「ソベレーン」貨モ「シルリング」貨モ二片ツヽノ内各一片ハ痛ク損傷壊敗ニ就キ一片ハ未タ新製ノモノトスベシ果シテ然ル片ハ凡ソ壱「ソベレーン」ノ二十分ノ一ニ相當スル重量ノ「シルリング」貨ハ軽量「ソベレーン」ノ拾五分ノ一ニ相當スル「モ或ハナキニシモアラザルベシ又軽量ノ「シルリング」ハ重量ノ「ソベレーン」ノ僅ニ二十五分ノ一ニスラ当ラザル「モ又之レアラン夫レ貨幣ノ状況已ニ斯ノ如クナルニ至リテハ何ヲ以テ「ソベレーン」トセン乎何ヲ以テ「シルリング」トセン乎又何ヲ以テ「ソベレーン」ト「シルリング」ノ関係トセン乎」斯ル結果実際ノ沿革ハ本書第二編ニ就テ参看スベシ

右ノ第一第二ノ源因トモニ「サー、ゼイムス、スチュアルト」氏ノ呼論ハ実ニ一言半句モ異存ヲ唱フベキノ点ナク明々亮々タル論ナリ実ニ同氏ノ所論ノ如ク凡ソ諸貨幣ハ歳月ノ共ニ変化ヲ来スヲ免レザルモノナリ蓋シ左ノ如キ諸理由ノ在ルアレバ斯ク変化ヲ来スハ緊

要ノ「ナルベシ

方ノ二源因ノ結果ハ漸次ニ双方トモ互ヒニ中立ス
ルニ至ルハ論ヲ俟スシテ明了ナリソハ他ナシ金ノ
産出上ニ変化ヲ生シ為メニ金貨ヲ一層貴ラシムル
ノ勢ヒアルキハ一方ニハ流通ノ際貨幣ノ摩耗其他
ノ事故在ルアリテ以テ貨幣ヲ一層低下ナラシムル
ノ勢ヲ示シ両者相符合スルアレバナリ

「サー、ゼイムス、スチユアルト」氏ハ此オ以上ノ思想ヲ懷
キ考察ヲ備ヒシガ故ニ其経済論ヲ著述スルニ当リ別
ニ計算用ノ貨幣ナルモノヲ採用シテ以テ國内ニ實際
流通セル貨幣ト之レヲ別ツベキヿヲ主張セリ
又「サー、ゼイムス、スチユアルト」氏ノ曰ク凡ソ諸物價ハ
其物ニ関スル百般ノ事状ト人々ノ想像ニ渊スル凡百

ノ事状ノ相寄リ相集ルニ是レ属スルモノナルガ故ニ
凡ソ物價ハ相互ノ関係如何ニ依リテ而已変動スルモ
ノト視做スベシ果シテ然ラハ凡ソ一定不動ノ量器ニ
依リテ斯ク物價ノ変更スル割合如何ヲ判定スルノ妨
礙トナル物ハ其物ノ何タルヲ問ハス其物コソ実ニ貿
易上ニ取リ有害タリ賣買上ニ取リ障害タラザルベカ
ラスト云々
又曰ク余カ所謂計算用ノ貨幣ハ凡ソ賣買スベキ萬般
諸品ノ價格ヲ量ルノ用ニ供スルガ為メニ発明シタル
同量同物ノ専用量器ノ外他ナシ故ヲ以テ計算用ノ貨
幣ナルモノハ流通用ノ貨幣トハ全ク別種ノモノナル
ト云シ又曰ク貨幣ナルモノハ意義ヲ煎シ詰メテ論ス
レバ詰リ同量同物ノ想像貨幣ニ過キザルナリト云ト

斯ク「サー、ゼイムス、スチユアルト」氏ノ計算用ノ貨幣ト云フノ意義、「トクトル、ハウンター」氏ガ同氏ノ貨幣制法ニ付テ論セシモノ、中ニ詳ラカナリ其實幣ノ制ニトハ「サー、ゼイムス、スチユアルト」氏カ曾テ東印度會社ニ顧問タリシ日時ヲサニ貨幣ノ壞敗ニ際セシヲ以テ印度ニ施行セシ貨幣ノ政乃チ是レナリ

「ドクトル、ハウンター」氏ガ「サー、ゼイムス、スチユアルト」氏ノ貨幣制法ニ付テ論セシモノトハ他ナシ即チ人ノ事是レナリ其文ニ曰ク

凡ソ何邦國何地ニ限ラス其一造幣寮丈ケノ鑄造ニ限ル正貨ハ以テ本位ニ選定スヘカラス其然ル所以ノモノハ他ナシ凡ソ造幣寮ナルモノハ一ケ所トシテ信ヲ置クアタハザレバナリ又造幣寮ノ取締向ヒ百事能ク

行届ザルナキカ如シト雖モ猶且ツ贋擬造ノ憂患ヲ免レザルヤ必セリ然レバコソ想像貨幣ナルモノヲ考出セシナリ乃チ此想像貨幣ニ因リテ以テ凡ソ「ルウピー」貨一切ノ價格ヲ量ルベキモノトス扨又東印度會社ノ顧問中ニテ最モ祖先ニシテ且ツ最モ立論所見ノ正確ナル財政顧問ノ一人其事ヲ記録ニ存シ置ケリ即チ其文ニ曰ク

「ルーピー」貨若干額ヲ携ヒ來テ之ヲ両替屋ニ致ストキハ両替屋ハ一片ツヽ逐一之ヲ檢査シ先ツ其性合ノ優劣ヲ見分ケ然後其量目ノ軽重ヲ分別シテ以テ其貨幣ノ善悪ヲ鑑定スルヲ常トナス斯ノ如ク其性合ノ優劣ヲ判シ量目ノ軽重ヲ見分ケタル後「シツカ」貨并ニ「ソナノツ」貨トモ何レモ其減少高ハ合法通リ丈ケハ之ヲ

然ル後ニ至リテ初メテ全額ニテ幾許ノ價アルモノ
ルカヲ「カーレント、ルウピー」貨ニ依テ以テ相量リ相
定ムルモハトナスナリサルガ故ニ「カーレント、ルウ
ピー」貨ナルモノハ唯一定不動ノ貨幣ニシテ其レニ依リ
テ目下諸貨幣ノ價格如何ヲ量ルニ過キサル而已其然
ル所以ノモノハ他ナシ抑モ「カーレント、ルウピー」貨ナ
ルモノハ其実現貨ニアラザルガ故ニ贋擬摸造ノ患ニ
罹ルノ恐レナク又摩耗損傷ヲ来スノ「決シテ之ヽアラザレバナリト

石ノ論ハ「ベンガル」地方ノ貨幣ニ関シ「サー、ゼームス、スチュアルト」氏ガ東印度會社ヘ寄セシ論文中ヨリ引用スル所ニ係ル又同氏カ建白セシ貨幣制法中ニ左ノ一條ヲ載セリ其文ニ曰ク

東印度會社ニ於テハ向後流通貨幣ノ事ニ関シ一切ノ混雑紛乱ヲ底止スルノ議ニ一決シタルニ付テハ乃チ其目的ヲ達スルカ為メ爰ニ結約シテ以テ「カーレンシー、ルウピー」貨ヲ以テ当「ベンガル」地方ノ本位貨幣トナスベキ「トス」ト定ムベシ就テハ此「ルウピー」貨ヲ而已本位貨幣トシ其純銀一定ノ含分ヲ増減ナ変動ナカラシメンカ為メ爰ニ凡ソ如何ナル貨幣ニ限ラス此「ルウピー」貨ト同量目同性合ノ通弓貨ヲ鋳造發行スル「ヲ厳禁スルモノトス且又此「ルウピー」貨ノ将来ニ於テモ鋳造ノ粗悪ニ流レ若クハ流通轉傳ノ為メニ摩耗ヲ受クル「等ノ弊ヲ被ムル「勿シメンカ為メニ此末發行ノ貨幣「ルウピー」ノ形下ス「ヲ厳禁スルモノトスト

「サー、ゼイムス、スチユアルト」氏カ印度ニ於行セシ如キ
斯ル貨幣ノ政ヲ以テセハ一定不動ノ量器ヲ得テ以テ
萬般ノ諸物價ヲ量ルノ用ニ供スルヲ得ベシサレバ
英國ノ如キモ斯ル政ヲ施サハ蓋シ常ニ「シルリング」貨
ハ壱「ポンド」ノ二十分ノ一ニシテ「ペニー」ノ十二倍タル
ベキナリ夫レ然リト雖モ仮令ヒ斯クハ「シリタリ
トモ夫レガ為メニ金銀貨幣ノ用ヲ脱除スルニハアラ
ス乃チ金銀貨幣ノ在ルアリテ以テ萬般交易ノ媒介物
トナルヲ要セザルニハアラザルナリ斯クナセバ只此
量器ニ依リテ以テ貨幣ヲ賣買ノ商品トナスニ過キザ
ル而已
勿論斯ル政ヲ施セハ其レガ為メニ流通ノ自由ヲ妨ケ
随テ其流通充分ノ域ニ達スル能ハザルベシ故ニ今余

輩此「サー、ゼイムス、スチユアルト」氏ノ政ハ一ツノ貨幣ヲ
シテ其交換ノ媒介物タルノ実效ヲ以テ諸物價ノ目安
タル要務ヲ遂ケシムル「コト」ヲ助クルノ政ナリト云フモ
亦可ナカルベキナリ
抑モ何ノ國何ノ地ヲ問ハス斯ル政ヲ施スベキカ否ヤ
ハ其國流通貨幣ノ全況如何ニ是レ由ルモノナリ
已ニ本書第二百九「ペイヂ」ヨリ二百十一「ペイヂ」迄ニ載
録セシ千八百九十六年ノ英國記事ト題セルマツコー
レイ」氏所論ノ如キノ貨幣ニテモ又ハ本書第二百十一
「ペイヂ」ヨリ第二百十二「ペイヂ」迄ニ載録セシ「ドクトル、
ハウンター」氏カ此項マデ猶ホ印度ニ行ヒ來レリトス
セシ如キノ貨幣ニテモ政府大ニ大ニ令シ其價ヲ
以テ定位本位トナシ凡ソ自他ノ諸貨幣ノ一切其性

其量目ニ依リテ以テ取引ノ際ニ賣買ヘキコト定ナバ為メニ通商ノ上ニ便益スル所ハ少ナラザレドモ疑ヲ容レス蓋シ之ガ為メ或ハ貨幣ノ流通ヲ遲緩シムルコトアルトモ亦之ガ為メニ幾分カ人民相互ノ間ニ徐々ト公義ヲ尽クス「アルベシ

凡ソ諸物價ノ如何ヲ算シ負債者ノ負債如何ヲ量ルノ計算用貨幣ナルモノハ恰モ其物ガ萬般交易ノ媒介トナルニ要用ナル如キ固有ノ同價乃チ報酬ノ其物ヲ

ルヲ要セザルコトハ余輩已ニ之ヲ論セリ看スヤ「ケリイ」氏著「カムビスト」ニ曰ク仮令ヒ計算用ノ貨幣ノ物ハ之ニ代ルノ正貨アルニアラザレドモ猶且ツ其計算用ノ實價ハ其若干ノ部ト其若干ノ部トノ關係即チ割合ニ依リテ相定マル「モ之」アラントノ言ヲ

「サー、ゼイムス、スチユアルト」氏其著述「コンオフ、ベンガル」ト題セル書中第十二「ペイゲ」ニ曰ク凡ソ余ガ目下ニ視知セル宇内ノ諸國中種類ノ何タルヲ問ハス未タ一定ノ正貨ヲ以テ其國萬般ノ計算ヲナスモノアルヲ觀ザルハ抑モ何オノ理由アリテ然ノカト」又曰ク英ノ「ポンド」貨ナリ佛ノ「リイブル」貨ナリ日耳曼ノ「フロリン」貨ナリ「フレミ」アノ「スチリング」貨ナリ西班牙ノ「ピアストル」貨ナリ「ジユカト」貨ナリ「マラベジ」貨ナリ葡萄ノ「」貨ナリ其他「ベンガル」ノ「ローレント、ルウピー」貨ナリ凡ソ以上ノ諸貨ハ皆一定ノ正貨ニハアラスト

英國ニ於テ「ソベレーン」ノ名称ヲ下シテ「ポンド」貨鋳造セシハ抑モ此「サー、ゼイムス、スチユアルト」氏著書成リ世ニ出テ、ノ後ニアリ

サレバ右ニ論スルカ如キ種類ノ計算目当貨幣ハ仮令ハ
其物ハ現物ニアラザル貨幣ナルトニ只〻想像貨幣ト
フハ當ヲ失スルモノト云ハザルベカラス
彼ノ地金報告世ニ出テ継テ千八百十九年ノ條例発行
アリテヨリ一大論場ヲ大英國ニ開キシニ當時會マ正
金拂停止ノ時ニ際セシヲ以テ毫モ正貨ニ関係ナキ想
像貨幣ナルモノヲ誤ルヲ痛論切議スル當ナラザリシ
ナリ
蓋シ「グローヤスター、ウヱルソン」氏ノ小冊子并ニ「ペルシ
ドル、ヱリオット」氏ノ小冊子オヨリ僅ニ引用スルアラバ
以テ充分ニ此才両氏ガ毫モ固有ノ同價乃チ報酬ナキ
ノ一貨ヲ誤ンヿヲ主張セシ意ノ如何ナリシヤヲ明証
スルニ足ルベケレバ即チ之ヲ寫出スレ〻左ノ如シ